科目名	教職概論	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	本科目は、学校教育を担う教職の意義、求められる教師像と教員養成の変遷、教職と教育法規、教師の職務内容、教育実習の意義と心得、現代教育における課題等について学び、学校教育において求められる教師の資質について考える。
	到達目標	（1）教職の意義や教師に求められる資質や能力について学び、その職責の重さを認識するとともに教職への意欲を高める。 （2）教育法規を理解するとともに、教師としての職責や職務内容について理解を深める。 （3）教育実習の意義・心得を学び教職への意欲を高めるとともに、現代教育をめぐる様々な課題等について理解する。
授業計画	(1) Ⅰ 教職の意義（教師としての使命感） (2) 求められる教師像（保護者は、生徒は）（含むグループ討議） (3) Ⅱ 教育史①（戦前の教員養成の変遷） (4) 教育史②（戦後の教員養成の変遷） (5) 教育基本法（改正前と改正後）の比較）（グループ活動中心） (6) 教育法規の種類と名称 (7) Ⅲ 教師の職務内容 教師の身分と服務規律 (8) 〃 教師の身分と服務規律（演習 グループ活動） (9) 〃 学校の組織体制と職務 (10) 〃 学級担任の１日の業務（グループ討議を中心に） (11) 〃 学級担任の１年の業務（グループ討議を中心に） (12)Ⅳ 現代教育をめぐる様々な課題①（グループ討議を中心に） (13) 〃 ②（グループ討議を中心に） (14) 〃 ③（グループ討議を中心に） (15)Ⅴ 教育実習の意義と心得	
自学自習	事前学習	・参考文献や配布するプリント、新聞等を活用して教育に対する関心・理解を深めること。
	事後学習	・常に教職に対する意欲を高める行動をするとともに、教職への適性も考察すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	・文部科学省『小学校学習指導要領』 東京書籍 2008年 ISBN 9784487286959 ・文部科学省『中学校学習指導要領』 東山書房 2008年 ISBN 9784827814613 ・文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房 2009年 ISBN 9784827814781
成績評価の基準と方法	基準	教師の職責や職務内容等についてよく理解し、教職（教育実習を含む）に応用できる実践的知識や態度の習得を合格の基準とする。
	方法	最終試験（60%）、小レポート（20%）、受講態度（20%）により総合的に判断する。
備考	・教員免許取得希望者を主とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育史	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	ー	
科目概要	授業内容	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶ。
	到達目標	西洋の近代教育思想史を学ぶことで、今日の教育に関する基本的な考え方の源流について理解できるようになる。 近世及び近現代の日本の教育史を学ぶことで、日本の教育の形成過程を理解するとともに、今日の教育について歴史的な視点をもって考えることができるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 西洋の近代教育思想 (1) ールソー, コンドルセー (3) 西洋の近代教育思想 (2) ーペスタロッチ, ヘルバルトー (4) 西洋の近代教育思想 (3) ーフレーベル, オーエンー (5) 西洋の近代教育思想 (4) ーデューイ, モンテッソーリー (6) 近世以前の教育史 (7) 明治時代の教育 (1) ー近代教育の開始ー (8) 明治時代の教育 (2) ー近代教育制度の確立ー (9) 大正時代の教育と大正新教育運動 (10)昭和戦前期の教育と戦時下の教育 (11)戦後の教育 (1) ー戦後教育改革ー (12)戦後の教育 (2) ー1950年代以降の教育ー (13)授業のまとめ1 (14)授業のまとめ2 (15)授業のまとめ3	
自学自習	事前学習	参考文献を読んでおく。
	事後学習	既受講内容について復習する。
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に教材プリントを配布する。
	参考文献	『学習指導要領』を使用している。 勝山吉章編著『西洋の教育の歴史を知るー子どもと教師と学校を見つめて』あいり出版 2011年 ISBN9784901903479　ほか
成績評価の基準と方法	基準	今日の教育に関する基本的な考え方の源流や、日本の教育の形成過程について理解するとともに、今日の教育について歴史的な視点をもって考えることができる。
	方法	授業参加度55点　定期試験45点
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育哲学	
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	本科目は、教育という営みの本質的意味を問い様々な教育思想（教育観）を概観しながら、「教育とは何か」という本質的問いについて考えていきます。同時に、「教育とは何か」という哲学的解釈の視座に基づき、現代の学校教育における諸課題について考察していきます。
	到達目標	(1) 現代教育に影響を与えてきた諸学説（教育思想の類型）について理解する。 (2) 教育思想（教育観）の解釈について理解を深める。 (3) 現代教育に関わる諸問題について、哲学的解釈の視座から考えることができる。
授業計画	(1) Ⅰ. 教育哲学の本質～教育哲学と何か～ (2) 〃 ①教育哲学の成立 (3) 〃 ②教育の哲学的解釈 (4) 〃 ③教育の哲学的特質 (5) Ⅱ.教育思想の諸類型 1) 「教」(伝達) を重視する教育観①クリーク (6) 〃 〃 ②デュルケーム (7) 〃 2) 「育」(助成) を重視する教育観③ルソー (8) 〃 〃 ④ペスタロッチ (9) 〃 〃 ⑤フレーベル (10) 〃 〃 ⑥モンテッソーリ (11) 〃 〃 ⑦デューイ (12) 〃 〃 ⑧ボルノー (13)Ⅲ. 教育哲学の展開～臨床教育学へのアプローチ～ ①教育的価値論への追求 (14) 〃 ②教育的認識論への追求 (15) 〃 ③教育的関係論への追求	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配布資料や提示した参考文献に目を通し授業への理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	・教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	・関川悦雄 他著 『教育思想のルーツを求めて』 啓明出版 2001 年 ISBN:9784874480281 ・沼野和男著 『教育の原理』 学文社 2002 年 I SBN:0784762002335 ・文部科学省 編著『中学校学習指導要領』 東山書房 2008 年 ISBN:9784827814613 ・文部科学省 編著『高等学校学習指導要領』 東山書房 2009 年 ISBN:9784827814781 ・文部科学省 編著『生徒指導提要』 教育図書 2010 年 ISBN:978487730
成績評価の基準と方法	基準	・教育哲学に関わる基礎的知識を習得し、これら教育の哲学的知見に基づいて、現代の学校教育に対し自分の考えを述べることができることを合格の基準とします。
	方法	・最終試験（60%）、小レポート（20%）、授業態度（20%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	発達心理学Ⅰ	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	子どもの心身の発達過程とその諸要因について講義する。
	到達目標	発達の原理及びヒトの発達の特徴について理解する。
授業計画	(1) 発達とは (2) 遺伝と環境 (3) パーソナリティの遺伝① (4) パーソナリティの遺伝② (5) 初期経験と臨界期 (6) 初期経験としての親子関係について (7) ヒトの発達の特徴 (8) 発達の様相、時期の区分 (9) 新生児のできること (10)発達段階説 (11)行動発達①：幼児期 (12)行動発達②：児童期 (13)行動発達③：青年期 (14)年齢間比較の方法と問題点 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	・当回の学習についてノート、プリント等で振り返ること ・何回かおきに復習用の課題を課す
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に資料を配布する。
	参考文献	矢野喜夫・落合正行『発達心理学への招待』 サイエンス社 1991 年　岡野恒也（編）『比較発達心理学』ソフィア 1992 年　中谷勝哉『行動誌入門』ナカニシヤ出版 1997 年 『学習指導要領』
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえたテストをおこない、60 点以上を合格とする。
	方法	期末テスト（100%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	発達心理学Ⅱ	
担当者	松田 君彦 / MATSUDA, Kimihiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	人間の誕生前後から死に至るまでの生涯を対象とした、発達に関する基礎的理論や捉え方を紹介する。また、さまざまな時期における対人関係が、生涯を通しての心の発達にどの様な影響を及ぼすかを考える。
	到達目標	・人間の心理的発達に関する基本的な概念や理論について理解する。 ・人間は『関係的存在』であり、関係の質が発達を左右することを理解する。
授業計画	(1) 発達心理学とは：発達の捉え方（遺伝か環境か、…） (2) 発達研究法：横断的研究と縦断的研究、他 (3) 発達の生物学的基礎：ポルトマンの研究 (4) ヒトにおける親子関係の特徴 (5) 胎児期・乳児期の発達：身近な人との出逢い (6) 幼児期の人間関係：親との関係、仲間関係、…… (7) 乳幼児期の心理臨床的問題：愛着障害、…… (8) 児童期の発達：子どもの認知機能の発達（ピアジェ理論を中心に） (9) 児童期の発達：子どもの認知機能の発達（ピアジェ理論を中心に） (10)児童期の発達：仲間関係の発達過程（児童期の出逢いと別れ） (11)青年期の発達：自分探しの旅、青年期の友だちとの出逢いと別れ (12)児童期・青年期の心理臨床的問題：ギャング・エイジの喪失、… (13)成人期の発達：大人としての社会的責任 (14)中年期・老年期の発達と問題 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・適宜、授業の初めに前回の授業内容の復習を行う。
使用教材・参考文献	使用教材	浜崎隆司・田村隆宏編著『やさしく学ぶ発達心理学』、ナカニシヤ出版、2011 年.
	参考文献	授業中に、適宜紹介する。学習指導要領。
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標が達成されたものを合格とする。
	方法	試験(70%)、授業への参加態度(30%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学習心理学Ⅰ	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	古典的条件づけ及びオペラント条件づけを中心とした学習の過程について講義する。各テーマにおいて多くは動物実験の話から始めるが、最終的にはヒト（子どもも含む）の学習について見ていく。さらに学習心理学の視点から子どもの行動及び心の発達についても考察する。
	到達目標	古典的条件づけ、オペラント条件づけを中心とした学習のメカニズムを理解し、ヒトの学習として説明できる。
授業計画	(1) 学習とは (2) 心理学史の中の学習心理学 (3) 学習心理学の流れ (4) 古典的条件づけ：パブロフの実験から (5) 古典的条件づけ：嫌悪条件づけ (6) 古典的条件づけ：古典的条件づけの諸問題 (7) オペラント条件づけ：オペラント条件づけの基礎 (8) オペラント条件づけ：部分強化と強化スケジュール (9) オペラント条件づけ：強化とは (10)オペラント条件づけ：応用行動分析 (11)学習と発達 (12)技能の学習 (13)社会的学習 (14)学習理論の応用：行動療法 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	・当回の学習についてノート、プリント等で振り返ること ・何回かおきに復習用の課題を課す
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に資料を配布する。
	参考文献	J.E.メイザー『メイザーの学習心理学』二瓶社 1996　ISBN4-931199-43-7　佐藤方哉『行動理論への招待』大修館書店 1976年 ISBN4-469-21056-0 『学習指導要領』
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえたテストをおこない、60点以上を合格とする。
	方法	期末テスト（100%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学習心理学Ⅱ	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	―	
科目概要	授業内容	前半は応用行動分析について、後半は言語行動をテーマに取り上げ学習心理学の視点から講義する。いずれの話題にも子ども（障害児を含む）の学習過程の内容を含む。
	到達目標	・言語の生物学的心理学的基盤およびその学習、発達過程について理解する ・応用行動分析の基礎を理解する
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 行動分析について (3) 応用行動分析① (4) 応用行動分析② (5) 応用行動分析③ (6) 応用行動分析④ (7) 応用行動分析⑤ (8) 応用行動分析⑥ (9) 言語行動① (10)言語行動② (11)言語行動③ (12)言語行動④ (13)言語行動⑤ (14)言語行動⑥ (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回までの学習についてノート、プリント等で振り返ること
	事後学習	・当回の学習についてノート、プリント等で振り返ること
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に資料を配布する。
	参考文献	P.A.アルバート&A.C.トルートマン『初めての応用行動分析』二瓶社 1992 年 ISBN 4-931199-15-1　日本行動分析学会編『ことばと行動』ブレーン出版　2001 年　ISBN 4-89242-675-X　佐藤方哉『行動理論への招待』大修館書店　1976 年 ISBN4-469-21056-0　学習指導要領
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえたテストをおこない、60 点以上を合格とする。
	方法	期末テスト（100%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	発達障害心理学	
担当者	山喜 高秀 / YAMAKI, Takahide	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	―	
科目概要	授業内容	教育現場において、近年大きな問題であり課題となっている“発達に偏りや遅れを持つ子どもたち（発達障害児）”をどう理解し援助していくかということについて、「特殊教育」から「特別支援教育」への転換に至った経緯とその現状を概観しながら考えていく。あわせて、具体的に（1）知的障害（2）広汎性発達障害（3）学習障害など主な発達障害について学習していく。
	到達目標	・ 「特殊教育」から「特別支援教育」への転換について学ぶ。 ・ 発達障害の概論について学ぶ。 ・ 主な発達障害（1）知的障害（2）広汎性発達障害（3）学習障害（4）AD/HD（5）情緒障害などについて学ぶ。
授業計画	(1) 「発達障害者支援法」、「特殊から特別支援への変遷」について学ぶ。 (2) 発達障害についての概論の学習。 (3) 知的障害（MR） (4) 自閉症スペクラム① (5) 自閉症スペクラム② (6) 注意欠陥・多動性障害（AD/HD）① (7) 注意欠陥・多動性障害（AD/HD）② (8) 学習障害① (9) 学習障害② (10)情緒発達障害①不登校 (11)情緒発達障害②行為障害 (12)児童虐待① (13)児童虐待② (14)治療と援助について (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学習した内容を他の関連科目の授業に役立てること。
使用教材・参考文献	使用教材	発達障害の心理臨床　2005　田中千穂子ら　有斐閣アルマ
	参考文献	山喜高秀　2004『社会福祉援助技術（情緒障害児短期治療施設）』創元社　　学習指導要領
成績評価の基準と方法	基準	「発達障害心理学」に関して、講義の到達目標の３項目の理解修得が達成されたものを合格とする。
	方法	受講態度（40%）総括レポート（60%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育行政概論	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	教育に関する社会的・制度的・経営的事項について学ぶ。
	到達目標	教育行政の原理を理解する。 教育行政の仕組みを理解する。 教育制度・行政をめぐる動向と課題を理解する。
授業計画	(1) 教育行政の基本原理 (1) (2) 同 (2) (3) 同 (3) (4) 教育行政の組織と運営 (1) (5) 同 (2) (6) 学校制度改革と教育行政 (1) (7) 同 (2) (8) 学校運営と学校自治 (1) (9) 同 (2) (10)教育内容行政 (1) (11) 同 (2) (12)教職員の養成・採用・研修 (13)教職員の権利と義務 (14)教育費と教育財政 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	浪本勝年ほか編『ハンディ教育六法』北樹出版 2015 年
	参考文献	篠原清昭編著『教育のための法学』20１3 年／坂東司郎ほか『学校生活の法律相談』学陽書房 2005 年 学習指導要領
成績評価の基準と方法	基準	教育行政の原理および国・都道府県・市町村における教育行政の仕組みと課題を理解し論述できる。
	方法	授業中に課する小レポート 30 点、期末試験 70 点
備考	近年は教育委員会会議の住民への公開が広く実施されているので、傍聴することを勧める。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育社会学	
担当者	江阪 正己 / ESAKA, Masaki	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
	読替科目：平成 23 年度以前入学生「教育社会学Ⅰ」	
科目概要	授業内容	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について講ずる。
	到達目標	・子どもの発達を＜社会化＞視点から理解する。 ・＜社会化＞にかかわる様々な社会集団の役割について理解する。 ・子どもの発達を現代的社会状況と関連づけて把握できるようになる。 ・子どもの問題行動を把握しその社会的性格を理解できるようになる。
授業計画	(1) はじめに (2) 子どもの発達と社会化 (3) 家族集団と子どもの社会化 (4) 仲間集団と子どもの社会化 (5) 近隣集団と子どもの社会化 (6) 学校集団と子どもの社会化 (7) 中間まとめ (8) 少子化と子育て支援 (9) 学歴社会の変貌 (10)マス・コミュニケーションと社会化環境 (11)ニューメディアと子ども (12)非行の現在 (13)児童虐待 (14)不登校・ひきこもり (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。
	事後学習	・授業終了時に、毎回小コメントの提出を課す。 ・授業計画の適当な節目に、テーマを与えた小レポートを課す。
使用教材・参考文献	使用教材	住田・高島編著『子どもの発達社会学 教育社会学入門』北樹出版 2011 年 ISBN9784779302602
	参考文献	・久冨/長谷川編『教育社会学』学文社　2008 年　ISBN9784762016554 ・岩永/稲垣『新版教育社会学』放送大学教育振興会　2007 年　ISBN9784595307010 ・A.H.ハルゼ―他編、広田他編訳『グローバル化・社会変動と教育 1』東京大学出版会　2012 年　ISBN9784130513173 ・A.H.ハルゼ―他編、刈谷他編訳『グローバル化・社会変動と教育 2』同前　2012 年 ISBN9784130513180 ・A.H.ハルゼ―他編、住田他編訳『教育社会学　第三のソリューシ
成績評価の基準と方法	基準	到達目標に沿い総合的に判断し一定の水準に達していれば合格。
	方法	学期末終了試験 70%　受講態度 15%　小レポート 15%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育課程論	
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko	
科目情報	教職専門科目 / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	本科目は、学校教育における教育課程の編成が、児童・生徒の人間としての成長へ大きく関与していることを理解し、現代の様々な教育の諸問題に対処しうる教育課程の在り方について考えていきます。
	到達目標	(1) 学校教育における教育課程の意義と編成について理解する。 (2) 教育課程の諸類型に基づいて、学校教育における教育課程の編成について考えることができる。 (3) 現代の学校教育における教育課程の編成について論じることができる。
授業計画	(1) Ⅰ. 教育課程（カリキュラム）の意義と編成 (2) Ⅱ. 教育課程の諸類型　1) 教科型の教育課程 (3) 〃　2) 経験型の教育課程 (4) Ⅲ. 教育課程と学習指導　1) 教育課程と『学習指導要領』 (5) 〃　2) 教育課程と学習指導原理 (6) 〃　3) 教育課程と学習指導の類型① (7) 〃　教育課程と学習指導の類型② (8) 〃　教育課程と学習指導の類型③ (9) Ⅳ. 教育課程と授業計画～「学習指導案」との関わりにおいて～ (10) 〃　1) 授業計画と目標（目標論）との関わり (11) 〃　2) 授業計画と評価（評価論）との関わり (12) 〃　3) 授業計画と「学習指導案」）との関わり (13) Ⅴ. 教育課程の動向と今後の課題　1) 諸外国の教育課程の動向 (14) 〃　2) 日本と諸外国における教育課程の比較 (15) Ⅵ. 現代日本の教育課程の動向と今後の課題	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配布資料や参考文献に目を通し授業への理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	・樋口直広 他編著『実践に活かす教育課程論・教育方法論』学事出版　2013年　ISBN 9784761916879
	参考文献	・田中耕治 他著　『新しい時代の教育課程』　有非閣アルマ　2011 年　ISBN 9784641124318 ・文部科学省 編著『中学校学習指導要領』東山書房　2008年 ISBN 9784827814613 ・文部科学省 編著『高等学校学習指導要領』東山書房　2009年 ISBN 9784827814781
成績評価の基準と方法	基準	・教育課程の基礎的知識について習得し、学校教育における教育課程の編成について根拠をもって論じることができることを合格の基準とします。
	方法	・最終試験（60%）、小テスト（20%）、授業態度（20%）
備考	・教員免許資格取得者を主とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	国語科教育法Ⅰ	
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義･演習 / 2 単位 / 3 年次	
	―	
科目概要	授業内容	国語の指導法について学ぶ。『学習指導要領』の内容を理解し、国語表現、文学の読解、説明的文章の読解、評論の読解の指導について学ぶ。
	到達目標	学習指導要領に基づき、国語教育の内容、教材研究の方法、指導法、評価の方法を理解する。あわせて教材の分析能力を高め、学習指導案作成の方法を身につける。
授業計画	(1) 中学校・高等学校教育における国語科教育の位置づけ (2) 国語科教育の内容と方法　1 (3) 国語科教育の内容と方法　2 (4) 国語科の教材づくりと教材研究　1 (5) 国語科の教材づくりと教材研究　2 (6) 国語科の教材づくりと教材研究　3 (7) 実践演習 1 学習指導案の作成と検討 (8) 実践演習 2 学習指導案の作成と検討 (9) 実践演習 3 学習指導案の作成と検討 (10)実践演習 4 学習指導案の作成と検討 (11)実践演習 5 学習指導案の作成と検討 (12)実践演習 6 学習指導案の作成と検討 (13)実践演習 7 学習指導案の作成と検討 (14)実践演習 8 学習指導案の作成と検討 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中にわからない点があれば質問に来ること。
使用教材・参考文献	使用教材	文部科学省『中学校学習指導要領解説　国語編』東洋館出版社 2008 年 ISBN978-4-491-02380-9 文部科学省『高等学校学習指導要領解説　国語編』東洋館出版社 2010 年 ISBN978-4-316-30021-4
	参考文献	柴田義松他編著『あたらしい国語科指導法　三訂版』学文社 2010 年　ISBN 978-4-7620-2035-3 教育実習を考える会編『学習指導案作成教本国語科』蒼丘書林 2012 年 ISBN978-4-915442-85-8
成績評価の基準と方法	基準	『指導要領』をしっかりと理解し、教材研究の方法と指導方法の基礎的な理論について理解できている。教材研究をすることができ、学習指導案を作成することができる。
	方法	演習発表 40%、レポート 40%、受講態度 20%。ただし、それぞれ合格点を満たしていること。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	国語科教育法Ⅱ	
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義･演習 / 2 単位 / 3 年次	
	―	
科目概要	授業内容	国語の指導法について学ぶ。実際に中学校・高等学校で使用されている教科書をもとにしながら、演習形式で国語科教育の方法を学ぶ。
	到達目標	『学習指導要領』に基づいた国語教育を実践し、授業を行える教材研究の力を身につける。その上で学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業を展開することができる。
授業計画	(1) 教材研究の方法　学習指導案の作成の方法 1 (2) 教材研究の方法　学習指導案の作成の方法 2 (3) 演習 1　教材研究・学習指導案の作成（中学校・文学作品） (4) 演習 2　模擬授業と質疑応答（中学校・文学作品） (5) 演習 3　教材研究・学習指導案の作成（中学校・説明的文章） (6) 演習 4　模擬授業と質疑応答（中学校・説明的文章） (7) 演習 5　教材研究・学習指導案の作成（中学校・表現的教材） (8) 演習 6　模擬授業と質疑応答（中学校・表現的教材） (9) 演習 7　教材研究・学習指導案の作成（高等学校・文学作品） (10)演習 8　模擬授業と質疑応答（高等学校・文学作品） (11)演習 9　教材研究・学習指導案の作成（高等学校・評論文 1） (12)演習 10　模擬授業と質疑応答（高等学校・評論文 1） (13)演習 11　教材研究・学習指導案の作成（高等学校・評論文 2） (14)演習 12　模擬授業と質疑応答（高等学校・評論文 2） (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中にわからない点があれば質問に来ること。
使用教材・参考文献	使用教材	『中学校国語 3』（学校図書）2013 年 ISBN978-4-7625-5218-2 『精選国語総合現代文編』（筑摩書房）2013 年 ISBN978-4-480-90039-5
	参考文献	文部科学省『中学校学習指導要領解説　国語編』東洋館出版社 2008 年 ISBN978-4-491-02380-9 文部科学省『高等学校学習指導要領解説　国語編』東洋館出版社 2010 年 ISBN978-4-316-30021-4
成績評価の基準と方法	基準	中学校・高等学校国語科教科書の教材をしっかりと研究することができ、学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業ができる。
	方法	演習発表 70%、受講態度 30%。ただし、それぞれ合格点を満たしていること。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	国語科教育法Ⅲ	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義･演習 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	国語の指導法について学ぶ（中・高等学校の漢文と評論文を中心に）
	到達目標	漢文と評論文のそれぞれついて、基本知識と教材研究の方法、授業における説明能力を習得する。
授業計画	(1) オリエンテーションと演習スケジュールの決定 (2) 漢字・漢語・漢文の基礎知識 1 (3) 漢字・漢語・漢文の基礎知識 2 (4) 漢字・漢語・漢文の基礎知識 3 (5) 漢字・漢語・漢文の基礎知識 4 (6) 教材研究演習（漢文）1 (7) 教材研究演習（漢文）2 (8) 教材研究演習（漢文）3 (9) 評論文研究の基礎 1 (10)評論文研究の基礎 2 (11)評論文研究の基礎 3 (12)教材研究演習（評論文） 1 (13)教材研究演習（評論文） 2 (14)教材研究演習（評論文） 3 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 ・指定された練習問題を解くこと。
	事後学習	・授業内容の復習。 ・練習問題で間違えた部分の再学習。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	『学習指導要領』を使用している。
成績評価の基準と方法	基準	中・高等学校国語科の漢文と評論の教材研究の方法と、それに基づく説明能力を習得すること。
	方法	演習発表 40%、レポート 30%、受講態度 30%　　ただし、それぞれ合格点を満たしていること。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	国語科教育法Ⅳ	
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義･演習 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	中・高等学校の国語に於ける現代文（文学作品）と古文の指導法を学ぶ。
	到達目標	1）学習指導要領を理解する。 2）教材分析ができるようになる。 3）教材としての文学作品の扱い方を知る。 4）古文の文法・語彙など指導者としての知識を身につける。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 講義（谷川俊太郎「二十億光年の孤独」） (3) 講義（魯迅「故郷」） (4) 〃 (5) 演習 ①（ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」） (6) 演習 ②（太宰治「走れメロス」） (7) 演習 ③(芥川龍之介「羅生門」） (8) 講義（古文の基礎知識） (9) 講義（文語文法） (10)講義（「かぐや姫」） (11)〃 (12)演習 ①(土佐日記「門出」） (13)演習 ②(宇治拾遺物語「絵仏師良秀」） (14)演習 ③(沙石集「児の知恵」） (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・教材の作品を前もって読んでおく。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておく。 ・演習担当者は準備を入念に行い、資料を完成させる。
	事後学習	・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・作品に関連した知識や情報を調べて更に理解を深める。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配布する。
	参考文献	・『中学校学習指導要領解説・国語編』『高等学校学習指導要領解説・国語編』（文部科学省） ・他は適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	教材を作者、作品、大意・主題、構成と構成図、解釈と解説の各観点から分析し、資料としてまとめることができれば合格とする。
	方法	演習（60 点）、レポート（30 点）、受講態度（10 点）
備考	国語科教育法Ⅲを併せて履修することが望ましい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語科教育法Ⅰ	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義･演習 / 2 単位 / 3 年次	
	―	
科目概要	授業内容	本科目では、英語の指導法について学習する。英語教育の歴史、学習指導要領、教授法、教員の役割・要件、言語習得理論、学習者論などの理論的な側面を学ぶとともに、4 技能の指導法について学習する。
	到達目標	英語教育に関する理論的な側面を理解する。
授業計画	(1) 授業概要説明、英語科教育法の履修にあたって (2) 英語教育と英語教育学 (3) 英語の国際化と日本の英語教育 (4) 学習指導要領 (5) 学習者 (6) 英語教員 (7) 小学校における外国語（英語）活動 (8) 英語教授法 (9) 第 2 言語習得と英語教育 (10)コミュニケーション能力の育成 (11)リスニング (12)スピーキング (13)マイクロ・ティーチング（1） (14)マイクロ・ティーチング（2） (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課題を出すので、次の時間までに提出すること。
使用教材・参考文献	使用教材	望月昭彦 編著 『改訂版　新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店 2010 年　978-4-469-24558-5
	参考文献	学習指導要領、教育職員免許法、同施行規則
成績評価の基準と方法	基準	英語教育に関する理論的な側面を理解した者は合格とする。なお、特別な理由のない限り、欠席、遅刻は認めない。
	方法	期末試験 50%、課題ほか 50%
備考	「英語科教育法Ⅱ」を履修する前に履修すること。原則として 2 年次以下の学生の履修は認めない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語科教育法Ⅱ	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義･演習 / 2 単位 / 3 年次	
	―	
科目概要	授業内容	本科目では、英語の指導法について学習する。「英語科教育法Ⅰ」で学んだ知識を基にして、主に実践的な側面を学ぶ。また、模擬授業も行う。
	到達目標	・英語の指導法の実践的な側面を理解する。 ・基本的な英語の指導ができる。
授業計画	(1) 授業概要説明 (2) リーディング (3) ライティング (4) ティーム・ティーチング (5) 測定と評価 (6) e ラーニングと CALL 教室 (7) 教科書と教材研究 (8) 文法の学習と指導 (9) 語彙と辞書検索指導 (10)授業運営 (11)模擬授業 (1) (12)模擬授業 (2) (13)模擬授業 (3) (14)模擬授業 (4) (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課題を出すので、次の時間までに提出すること。
使用教材・参考文献	使用教材	望月昭彦 編著 『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店 2010 年 978-4-469-24558-5
	参考文献	学習指導要領、教育職員免許法、同施行規則
成績評価の基準と方法	基準	英語の指導法の実践的な側面を理解し、基本的な指導ができた者は合格。なお、特別な理由のない限り、欠席、遅刻は認めない。
	方法	期末試験 50%、課題ほか 50%
備考	「英語科教育法Ⅰ」を履修した後に履修すること。原則として 2 年次以下の学生の履修は認めない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語科教育法Ⅲ	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義･演習 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	英語の指導法について学ぶ。特に教育機器の利用について、様々な機器を実際に利用しながら、その効果的な指導方法について学ぶ。
	到達目標	英語の教育機器を利用した指導法について学び、それぞれの特徴を理解する。 英語の教育機器の効果的な利用法を理解し、利用できるようになる。
授業計画	(1) 授業概要説明 (2) ワープロ、文章校正、readability index の利用 (3) コーパスの利用(1) (4) コーパスの利用(2) (5) コーパスの利用(3) (6) マルチメディアの利用 (7) LL 教室の利用 (8) インターネットの利用 (9) 電子黒板の利用 (10)デジタル教科書の利用(1) (11)デジタル教科書の利用(2) (12)タブレットの利用(1) (13)タブレットの利用(2) (14)メディアの特徴と利用方法 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業後に課題を出すので、次の時間までに済ませておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	教育職員免許法、同施行規則、学習指導要領
成績評価の基準と方法	基準	英語の教育機器の特徴を理解し、効果的な利用ができるようになった者は合格とする。
	方法	課題 70%、出席態度ほか 30%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義･演習 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	本科目では、中学校社会科・高等学校地理歴史科の指導法について学習する。中学校社会科と高等学校地理歴史科の目標、指導内容、指導計画、指導方法について学習し、特に中学校「地理的分野」の学習指導案を作成・模擬授業を行い、評価テストを作成できるようになる。
	到達目標	(1) 学習指導要領に基づき、中学校社会科・高等学校地理歴史科の目標、指導内容、評価について学習し、多面的な教材研究や指導方法の実際について理解を深め、考察することができるようになる。 (2) 中学校社会科・高等学校地理歴史科の教材分析や授業計画に基づき、学習指導案の立案作成や実践的指導力を身につける。 (3) 中学校社会科の模擬授業を行い、簡単な評価テスト（A4 版 1 枚程度）を作成できるようになる。
授業計画	(1) Ⅰ 社会科教育の変遷と教育的意義 (2) Ⅱ 中学校社会科の目標と指導内容（学習指導要領の解釈） (3) 中学校「地理的分野」の目標と指導内容（学習指導要領の解釈） (4) 〃 の目標と指導内容（学習指導要領の解釈） 含むグループ活動 (5) 中学校「歴史的分野」の目標と指導内容（学習指導要領の解釈） (6) 〃 の目標と指導内容（学習指導要領の解釈） 含むグループ活動 (7) Ⅲ 高等学校地理歴史科、世界史 A・世界史 B の目標と指導内容（学習指導要領の解釈） (8) 〃 日本史 A・日本史 B の目標と指導内容（学習指導要領の解釈） (9) 〃 地理 A・地理 B の目標と指導内容（学習指導要領の解釈） (10)Ⅳ 中学校「地理的分野」の指導法と教材研究 (11) 〃 の年間指導計画の作成 グループ活動 (12) 〃 の学習指導案の作成 グループ活動 (13)Ⅴ 中学校「地理的分野」の授業実践演習① 相互評価 (14) 〃 の授業実践演習② 相互評価 (15) 〃 の授業実践演習③ 相互評価、評価問題の作成	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・講義中に配布するプリントや参考文献に基づき、さらに知識・理解を深めること。 ・新聞等を活用し教育をめぐる課題等について省察し、自分の考えをまとめておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に配布するプリントを用いる。 五味文彦ほか著作『新しい社会 地理』東京書籍 ISBN9784487120468
	参考文献	中学校学習指導要領解説『社会編』日本文教出版 ISBN 9784536590051 高等学校学習指導要領解説『地理歴史編』教育出版 ISBN 9784316300221
成績評価の基準と方法	基準	中学校社会科・高等学校地理歴史科の目標・内容・授業構成について理解することにより、実践的指導力の基礎を習得し、中学校社会科・高等学校地理歴史科の学習指導案を立案・作成、簡単な模擬授業、評価問題の作成ができることを合格の基準とします。
	方法	模擬授業・学習指導案・評価問題（60%）、小レポート（20%）、受講態度（20%）を目安に総合的に評価します。
備考	・教職をめざす意欲ある学生の受講を希望します。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義･演習 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	本科目では、中学校社会科・高等学校地理歴史科の指導法について学習する。特に、中学校社会科歴史的分野・必修科目の高等学校地理歴史科（世界史 B）の目標、指導内容、指導計画、指導方法について学習し、中学校歴史的分野・高等学校地理歴史科（世界史 B）の学習指導案を作成・模擬授業を行い評価テストを作成できるようになる。
	到達目標	（1）学習指導要領に基づき、中学校社会科・高等学校地理歴史科の目標、指導内容、評価について学習し、多面的な教材研究や指導方法の実際について理解を深め、考察することができるようになる。 （2）中学校社会科・高等学校地理歴史科の教材分析や授業計画に基づき、学習指導案の立案作成や実践的指導力を身につける。 （3）中学校社会科・高等学校地理歴史科の簡単な模擬授業を行い、評価テスト（A4 版 1 枚程度）を作成できるようになる。
授業計画	(1) Ⅰ　中学校社会科「歴史的分野」の指導法と教材研究 (2)　〃　の年間指導計画の作成 (3)　〃　の学習指導案の作成　含むグループ活動 (4) Ⅱ　中学校社会科「歴史的分野」の授業実践演習①　相互評価 (5)　〃　の授業実践演習②　相互評価 (6)　〃　の授業実践演習③　相互評価 (7)　〃　の評価問題の作成、考察 (8) Ⅲ　高等学校地理歴史科「世界史Ｂ」の指導法と教材研究 (9)　〃　の年間指導計画の作成 (10)　〃　の学習指導案の作成 (11)Ⅳ　高等学校地理歴史科「日本史Ｂ・世界史Ｂ・地理Ｂ」(選択)の授業実践演習①　相 (12)　〃　の授業実践演習②　相互 (13)　〃　の授業実践演習③　相互 (14)　〃　の評価問題の作成、考察 (15)Ⅴ　社会科・地理歴史科教育法Ⅱ　全体まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・講義中に配布するプリントや参考文献に基づき、さらに知識・理解を深めること。 ・新聞等を活用しながら教育に関する課題等について、自分の考えをまとめておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に配布するプリントを用いる。五味文彦ほか著作『新しい社会　歴史』東京書籍 ISBN9784487120475、佐藤次高ほか著作『詳説　世界史』山川出版社 ISBN9784634708105
	参考文献	中学校学習指導要領解説『社会編』日本文教出版　ISBN 9784536590051 ・高等学校学習指導要領解説『地理歴史編』教育出版　ISBN 9784316300221
成績評価の基準と方法	基準	中学校社会科・高等学校地理歴史科の目標・内容・授業構成について理解することにより、実践的指導力の基礎を習得し、中学校社会科・高等学校地理歴史科の学習指導案を立案・計画、簡単な模擬授業、評価問題の作成ができることを合格の基準とします。
	方法	模擬授業・学習指導案・評価問題（60%）、小レポート（20%）、受講態度（20%）を目安に総合的に評価します。
備考	・教職をめざす意欲ある学生の受講を希望します。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義･演習 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	本科目は、中学校社会科・高等学校公民科の指導法について学習する。中学校公民的分野と高等学校公民科（現代社会）の目標、指導内容、指導計画、指導方法について学習し、学習指導案を作成・模擬授業を行い評価テストを作成できるようになる。
	到達目標	（1）学習指導要領に基づき、中学校社会科・高等学校公民科の目標、指導内容、評価について学習し、多面的な教材研究や指導方法の実際について理解を深め、考察することができるようになる。 （2）中学校社会科・高等学校公民科の教材分析や授業計画に基づき、学習指導案の立案作成や実践的指導力を身につける。 （3）中学校社会科の模擬授業を行い、簡単な評価テスト（A4 版 1 枚程度）を作成できるようになる。
授業計画	(1) Ⅰ 社会科教育の変遷と教育的意義① (2) 〃 社会科教育の変遷と教育的意義② (3) Ⅱ 中学校「公民的分野」の目標と指導内容（学習指導要領の解釈）① (4) 〃 （学習指導要領の解釈）② (5) Ⅲ 高等学校「公民科」(「現代社会」) の目標と指導内容（学習指導要領の解釈） (6) Ⅳ 中学校「公民的分野」の指導法と教材研究 (7) 〃 の年間指導計画・学習指導案の作成（グループ活動） (8) Ⅴ 中学校「公民的分野」の授業実践演習① 相互評価 (9) 〃 の授業実践演習② 相互評価 (10) 〃 の授業実践演習③ 相互評価 (11) 〃 の評価問題の作成 (12) Ⅵ 高等学校「公民」(「現代社会」) の授業実践演習① 相互評価 (13) 〃 の授業実践演習② 相互評価 (14) 〃 の授業実践演習③ 相互評価 (15) 〃 の評価問題の作成	
自学自習	事前学習	・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義で使用したプリントや参考文献に基づき、さらに理解を深めること。 ・新聞記事等を活用して社会科教育について省察すること。
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に配布するプリントを用いる。 五味文彦ほか著作『新しい社会 公民』東京書籍 ISBN9784487120482
	参考文献	中学校学習指導要領解説『社会編』日本文教出版 平成 20 年 ISBN 9784536590051 高等学校学習指導要領解説『公民編』教育出版 平成 22 年 ISBN 9784316300238
成績評価の基準と方法	基準	中学校「公民的分野」・公民科の目標・内容・授業構成について理解することにより、実践的指導力の基礎を習得し、中学校「公民的分野」の学習指導案を立案・計画、簡単な模擬授業、評価問題の作成ができることを合格の基準とします。
	方法	模擬授業・学習指導案・評価問題（60%）、小レポート（20%）、受講態度（20%）を目安に総合的に評価します。
備考	・教職をめざす意欲ある学生の受講を希望します。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義･演習 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	本科目は、中学校社会科・高等学校公民科の指導法について学習する。特に、高等学校公民科（倫理、政治・経済）の目標、指導内容、指導計画、指導方法について学習し、学習指導案を作成・模擬授業を行い評価テストを作成できるようになる。
	到達目標	（1）学習指導要領に基づき、社会科・公民科の目標、指導内容、評価方法について学習し、多面的な教材研究や指導方法の実際について理解を深め、考察することができるようになる。 （2）高等学校公民科（倫理、政経）の教材分析や授業計画に基づき、指導案の立案作成や実践的指導力を身に付ける。 （3）高等学校公民科（倫理、政経）の模擬授業と簡単な評価テスト（A4 版 1 枚）を作成できるようになる。
授業計画	(1) Ⅰ　高等学校公民科「倫理」の目標と指導内容（学習指導要領の解釈） (2) Ⅱ　高等学校公民科「倫理」の指導法と教材研究 (3)　〃　学習指導案の作成（グループ活動） (4)　〃　授業実践授業①　相互評価 (5)　〃　授業実践授業②　相互評価 (6)　〃　授業実践授業③　相互評価 (7)　〃　評価問題の作成、考察 (8) Ⅲ　高等学校公民科「政治・経済」の目標と指導内容（学習指導要領の解釈） (9) Ⅳ　高等学校公民科「政治・経済」の指導法と教材研究、学習指導案の作成 (10)　〃　学習指導案の作成（グループ活動） (11)　〃　授業実践授業①　相互評価 (12)　〃　授業実践授業②　相互評価 (13)　〃　授業実践授業③　相互評価 (14)　〃　評価問題の作成、考察 (15) Ⅴ　高等学校公民科指導法Ⅱまとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・使用教材や参考文献に基づき、さらに理解を深めること。 ・新聞記事等を活用して社会科教育について省察すること。
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に配布するプリントを用いる。 菅野覚明ほか著作『高等学校　新倫理』清水書院 ISBN9784389600129 伊東光晴執筆・監修『新版　政治・経済』ISBN9784407201130
	参考文献	中学校学習指導要領解説『社会編』日本文教出版　平成 20 年 ISBN 9784536590051 高等学校学習指導要領解説『公民編』教育出版　平成 22 年　ISBN 9784316300238
成績評価の基準と方法	基準	中学校「公民的分野」・公民科の目標・内容・授業構成について理解することにより、実践的指導力の基礎を習得し、高等学校公民科（倫理、政治・経済）の学習指導案を計画・立案、簡単な模擬授業、評価問題の作成ができることを合格の基準とします。
	方法	模擬授業・学習指導案・評価問題（60%）、小レポート（20%）、受講態度（20%）を目安に総合的に評価します。
備考	・教職をめざす意欲ある学生の受講を希望します。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	道徳教育の指導法Ⅰ	
担当者	野浪 俊子 / NONAMI, Toshiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	読替科目：平成24年度以前入学生「道徳教育の研究」、平成25・26年度入学生「道徳教育の指導法」	
科目概要	授業内容	本科目は、学校教育における道徳教育の意義と目的について理解し、さらには、道徳観の諸理論を概観することにより、学校教育における道徳教育の基礎理論について考察を深めながら考えていきます。
	到達目標	(1) 学校教育における道徳教育の意義と目的について理解することができる。 (2) 道徳観の諸理論について考察することができる。 (3) 道徳教育の実践的展開の基礎理論となる『学習指導要領：道徳編』を解釈し、授業計画を構想することができる。
授業計画	(1) Ⅰ.道徳教育の理論的基礎 1) 道徳教育の意義 (2) 〃 2) 道徳観の諸類型②(東洋思想) (3) 〃 3) 道徳観の諸類型②(西洋思想) (4) 〃 4) 道徳教育の変遷①(戦前) (5) 〃 5) 道徳教育の変遷②(戦後) (6) 〃 6) 道徳性の発達論①(一般的解釈に基づく道徳性の発達 (7) 〃 7) 道徳性の発達論②(コールバーグに基づく道徳性の発 (8) 〃 8) 道徳性の発達論③(ギリガンに基づく道徳性の発達論 (9) Ⅱ. 『学習指導要領－道徳編－』の基礎解釈 1) 道徳教育の目標について① (10) 〃 2) 道徳教育の目標について② (11) 〃 3) 道徳教育の内容について① (12) 〃 4) 道徳教育の内容について② (13) 〃 5) 道徳教育の評価について① (14) 〃 6) 道徳教育の評価について② (15)Ⅲ. 道徳教育の今後の動向と課題	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配布資料や参考文献に基づいて道徳教育への理解を深めること。 ・倫理観やモラル観に関する新聞記事等を通して、道徳教育の在り方について自らの考えを深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	・文部科学省 編著 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 日本文教出版 2008年 ISBN:97845365590044
	参考文献	・文部科学省 編著『中学校学習指導要領』 東山書房 2008年 ISBN:9784827814613 ・文部科学省 編著『生徒指導提要』 教育図書 2010年 ISBN:9784877302740 ・教師養成研究会編著 『道徳教育の研究』 学芸図書 2009年 ISBN:4761603461
成績評価の基準と方法	基準	・学校教育における道徳教育の意義と目的を理解し、様々な道徳観や『学習指導要領道－道徳編』の解釈に基づいて、道徳教育の理論的考察を深めるがことができることを合格の基準とします。
	方法	・最終試験（60%）、小レポート（20%）、授業態度（20%）
備考	・中学校教員免許資格取得者は全員必修。(教員免許資格取得者を主とする。)	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	道徳教育の指導法Ⅱ	
担当者	前原 孝二 / MAEHARA, Koji	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	道徳教育の目標は、学校教育活動全体を通じて道徳性を養うことである。　本科目は、道徳教育の指導法Ⅰを踏まえ、道徳教育の要である「道徳の時間」（道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育てる時間）の指導法を中心に講義をおこないます。道徳の時間の指導の基本を理解し、学習指導案の作成及び模擬授業等を通して、学校教育における道徳教育の実践的指導力の基礎を培います。
	到達目標	(1) 道徳の時間の進め方の基本について理解する。 (2) 道徳の時間の学習指導案を作成することができる。 (3) 自作した道徳学習指導案をもとに模擬授業ができる。 (4) 文学作品等から道徳学習指導案を構想できる。
授業計画	(1) ガイダンス（本科目の進め方・道徳授業の振り返り・道徳教育の全体計画等） (2) 道徳の時間の指導　1）道徳的実践力を育成する指導法①（読みもの資料中心） (3) 〃　2）道徳的実践力を育成する指導法② (4) 〃　3）道徳的実践力を育成する学習指導案①（基本形・指導過程） (5) 〃　4）道徳的実践力を育成する学習指導案②(作成と検討) (6) 〃　5）道徳的実践力を育成する学習指導案③(評価) (7) 〃　6）　授業参観の観点を明確にした模擬授業① (8) 〃　7）　授業参観の観点を明確にした模擬授業② (9) 〃　8）　授業参観の観点を明確にした模擬授業③ (10)〃　9）　相互評価を取り入れた模擬授業④ (11)〃　10）　相互評価を取り入れた模擬授業⑤ (12)これからの学校教育における道徳教育　1）全教育活動における道徳教育（教科･特活） (13)〃　2）現代の教育課題に応える道徳の時間 (14)〃　3）文学作品等からの自作教材の開発及び構想 (15)〃　4）郷土素材を活用した道徳の時間	
自学自習	事前学習	・道徳教育指導法Ⅰで学んだ用語は理解しておくこと。 ・事前に配布した資料等は必ず熟読し、課題意識を持って授業に臨むこと。
	事後学習	・新聞、テレビ、インターネット等の記事を、道徳の時間に活用できるかどうか考える。 ・中学生、高校生を取り巻く様々な問題を、道徳教育の観点から考える。
使用教材・参考文献	使用教材	・文部科学省　編著　『中学校学習指導要領解説　道徳編』　日本文教出版　2008 年 ISBN:97845365590044
	参考文献	・文部科学省 編著『中学校学習指導要領』 東山書房　2008 年　ISBN:9784827814613 ・その他は授業のときに配布する。
成績評価の基準と方法	基準	・道徳教育の要である「道徳の時間」の重要性を理解し、『学習指導要領道徳編』に基づいて「道徳学習指導案」を構想し授業計画を立案し模擬授業ができることを合格の基準とします。
	方法	・「道徳学習指導案」作成（40%）、模擬授業（20%）、授業構想レポート（20%）、受講態度（20%）
備考	・教員免許資格取得者を主とする。・道徳の時間に活用できる書物を読み、道徳学習指導案の構想を提出する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教科外活動論	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 必修 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 3 年次	
	―	
科目概要	授業内容	本科目は、学校教育における教科外活動（特別活動）の基本的性格とその教育的意義を「学習指導要領」等を通して学習し理解することにより、教育実践上の教科外活動における児童生徒理解や指導の在り方について習得する。
	到達目標	(1) 学習指導要領等を通して学校教育における教科外活動（特別活動）の教育的意義と教科内容をよく理解し、実践的指導方法を習得する。 (2) 教科外活動の学習を通して、集団の一員としてよりよい人間関係を築こうとする自主的・実践的態度を備えた生徒を育てようとする意欲を持つようになる。
授業計画	(1) 教科外活動とは　目標と内容 (2) 教科外活動とは　意義、歴史的変遷 (3) 教科外活動と他の教育活動との関連 (4) 教科外活動の指導原理 (5) 学級活動・ホームルーム活動の学習指導案 (6) 学級活動・ホームルーム活動の内容と指導１ (7) 学級活動・ホームルーム活動の内容と指導２ (8) 学級活動・ホームルーム活動の内容と指導３ (9) 学級活動・ホームルーム活動の内容と指導４ (10)生徒会活動の指導 (11)クラブ活動の内容と指導 (12)学校行事の内容と指導 (13)教科外活動における評価 (14)教科外活動の課題 (15)教科外活動のまとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献や配布するプリント、新聞記事等を活用して教育に対する理解を深めること。
	事後学習	・常に自己の教職に対する意欲を高め行動するとともに、教職への適性も考察すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	・文部科学省『小学校学習指導要領』　東京書籍　2008 年　ISBN 9784487286959 ・文部科学省『中学校学習指導要領』　東山書房　2008 年　ISBN 9784827814613 ・文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房　2009 年　ISBN 9784827814781
成績評価の基準と方法	基準	学校教育における教科外活動(特別活動)の意義と特質について理解し、教科外活動の実践的指導方法について考察・実践できることを合格の基準とします。
	方法	学級活動実践(50%)、学級活動での意見発表（10%)、小レポートの提出（20%)、受講態度（20%）により総合的に判断する。
備考	・教員免許取得希望者を主とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育メディア論	
担当者	鈴木 雄清 / SUZUKI, Yusei	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 3 年次	
	―	
科目概要	授業内容	教職に関する科目（教育課程および指導法に関する科目）　・教育の方法および技術（情報機器及び教材の活用を含む）　教育では様々なメディアが活用されている。本授業では、紙メディアによる独学を支援する教材の作成を通じて、学習を支援するための設計や方略を学ぶ。これらは、コンピュータ等をはじめとしたメディアを教育で活用するための基礎となる。
	到達目標	インストラクショナルデザインの基礎に従って、独学を支援するための教材を作成できるようになることを目指す。そのためには、明確な目標の設定やテスト、教授方略を用いた教材の設計ができなければならない。また、作成教材に形成的評価を実施し、よりよい教材にするために改善策を提案できるようになる。
授業計画	(1) 【B1】オリエンテーション、独学教材について (2) 教材のアイデアの具体化 (3) 教材作成のシステム的手順 (4) 前提条件や目標の明確化 (5) テストの作成 (6) 教材企画書の作成［課題 1］ (7) 【B2】相互評価・改訂版の作成 (8) 教材の構造分析 (9) 学習支援方法の決定 (10)教材の作成 (11)相互評価・改訂［課題 2］ (12)【B3】形成的評価 (13)教材の改善 (14)教材作成報告書［課題 3］ (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・ 使用教材を必要に応じて読む。 ・ 意味のわからない用語について調べる。
	事後学習	・ 授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。 ・ 小テストや使用教材・参考文献を用いて復習する。
使用教材・参考文献	使用教材	鈴木克明『教材設計マニュアル―独学を支援するために』北大路書房，2002 年，ISBN9784762822445〔¥2,200+税〕
	参考文献	R.M.ガニェ・W.W.ウェイジャー・K.C.ゴラス・J.M.ケラー（著），鈴木克明・岩崎信（監訳）『インストラクショナルデザインの原理』 北大路書房，2007 年，ISBN9784762825736　学習指導要領
成績評価の基準と方法	基準	すべての小テストと課題の合格を単位取得の条件とする。
	方法	小テスト・フォーラムへの投稿（20%）、課題 1（20%）、課題 2（30%）、課題 3（30%）の累積で評価する。
備考	教育実習を希望する者は、事前に本科目の履修が必要。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育工学	
担当者	鈴木 雄清 / SUZUKI, Yusei	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	教職に関する科目（教育課程および指導法に関する科目）　・教育の方法および技術（情報機器及び教材の活用を含む）　授業を行うために必要な教育の方法やメディアの活用、授業の構成方法、評価、魅力ある授業などについて教育工学の視点から扱う。
	到達目標	教育工学（インストラクショナルデザイン）の考え方や手法を学び、授業をまとめ、デザインすることができるようになることを目指す。
授業計画	(1) オリエンテーション、アイスブレイク (2) インストラクショナルデザインとは何か (3) 学習目標を明確にする (4) 学習者を分析する (5) 学力とは何か ―学習成果の 5 分類 (6) コピペレポートをどう防ぐか (7) どう教えるのか ―9 教授事象 (8) 学習指導案とは何か (9) 学習指導と評価 (10)魅力ある授業をつくる(1) ―ARCS モデル (11)魅力ある授業をつくる(2) (12)メディアを活用した教育(1)　―メディア適正・オンライン教育 (13)ICT を活用した教育(2)　―電子黒板 (14)学習指導案を分析する (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・使用教材を必要に応じて読む。 ・意味のわからない用語について調べる。
	事後学習	・小テストや使用教材・参考文献を用いて復習する。 ・授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。 ・他の学習者のフォーラムへの投稿に返信する。
使用教材・参考文献	使用教材	稲垣忠・鈴木克明『授業設計マニュアル―教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房, 2011 年, ISBN9784762827501〔¥2,200+税〕
	参考文献	鈴木克明『教材設計マニュアル―独学を支援するために』北大路書房, 2002 年, ISBN9784762822445　学習指導要領　ほか
成績評価の基準と方法	基準	すべての小テストと課題の合格を単位取得の条件とする。
	方法	小テスト・小課題（フォーラムへの投稿を含む）(60%)、課題（40%）の累積で評価する。欠席は減点する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育心理学Ⅰ	
担当者	松田 君彦 / MATSUDA, Kimihiko	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	―	
科目概要	授業内容	教育とよばれる事象の中から心理学に関連した問題をとり上げる。従来から心理学の主な関連領域としては発達、学習、適応、評価などが研究されてきたが、この教育心理学Ⅰでは発達と学習を中心に講義する。
	到達目標	１．発達という側面が教育活動にどのような形で関わってくるのかその必然性やメカニズムについて理解し、説明できるようになること。　２．学習にはいろんな種類やメカニズムが存在することや、それらが教育活動とどのように関連してくるのかについて理解し、説明できるようになること。
授業計画	(1) 発達と教育（遺伝と環境、成熟説と学習説） (2) 乳幼児における認知の特徴 (3) ピアジェの認知発達段階説（１） (4) ピアジェの認知発達段階説（２） (5) 言語発達と教育、乳幼児期の言語発達 (6) 学童期の読書と作文 (7) 社会性と社会的スキルの発達 (8) 道徳性と向社会性の発達 (9) 記憶のプロセス (10)記憶と効果的な学習法 (11)個人差に応じる指導（適性処遇交互作用） (12)個人差に応じる指導（学習到達度の個人差） (13)個人差に応じる指導（認知スタイルと興味の個人差） (14)学習過程による授業の分類（１） (15)学習過程による授業の分類（２）	
自学自習	事前学習	次回の講義に関連したキーワードやトピックに関して予備知識を与え、調べさせておく：・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	前回の授業の概略を振り返り、主要な概念の理解を再確認させる。
使用教材・参考文献	使用教材	北尾倫彦他著「コンパクト教育心理学」　北大路書房
	参考文献	学習指導要領 その都度、適宜提示する。
成績評価の基準と方法	基準	１．発達を考慮した教育活動の必要性が理解できていること。　２．学習のタイプに応じた教育活動について、概略説明できるようになること。
	方法	最終筆記試験（70点）、授業への参加度（30点）。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学校臨床論	
担当者	◎神薗 紀幸 / 白井 祐浩 / 松田 君彦	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	本講義では，今日の学校教育における諸問題について考える上での基本的な理論や考え方を学び，様々な視点を持つ心理学的な知見をもとに，その克服の方途を考えていく。また，生徒指導の理論及び方法について学ぶ。
	到達目標	現代の学校教育における様々な課題を教育臨床心理学的立場から考えることが出来ること。
授業計画	(1) オリエンテーション／イントロダクション (2) Ⅰ．組織としての学校と学校教育 ① (3) 〃 ② (4) 〃 ③ (5) 〃 ④ (6) Ⅱ．現代の学校における教育臨床的諸課題 ① (7) 〃 ② (8) 〃 ③ (9) 〃 ④ (10)Ⅲ．学校のあり方と学校臨床の展望 ① (11) 〃 ② (12) 〃 ③ (13) 〃 ④ (14) 〃 ⑤ (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	講義中に理解が不十分であった事柄については，関連する図書や資料等にあたり，補っておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は指定しない。必要な資料や教材は授業中に配布する。
	参考文献	「学習指導要領」。その他必要に応じて，授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	現代の学校教育における様々な課題を教育臨床心理学的立場から考えることが出来ることを合格の目安とする。
	方法	本講義は 3 名の教員によるオムニバス形式で行われる。 最終評価は，各教員が受講態度 50%，各個課題 50%で評価した得点を合算したものによる。
備考	授業内容の実施順序は変更になる場合がある。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教育心理学Ⅱ	
担当者	白井 祐浩 / SHIRAI, Masahiro	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	教育心理学における各領域についての基礎的な知識及び進路指導に関する知識を学ぶ。また、その知識を教育現場にどのように応用していくかについても理解する。
	到達目標	教育心理学における基礎的な知識及び進路指導に関する知識について学び、その知識を教育現場で応用できる形で身につける。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 学級の理解と指導 1 (3) 学級の理解と指導 2 (4) 学習の動機づけ 1 (5) 学習の動機づけ 2 (6) 性格の形成 1 (7) 性格の形成 2 (8) 不適応時の理解と指導 1 (9) 不適応時の理解と指導 2 (10)心理検査と心理療法 1 (11)心理検査と心理療法 2 (12)教育評価の考え方と実際 1 (13)教育評価の考え方と実際 2 (14)進路指導の理論と方法 (15)まとめ	
自学自習	事前学習	教科書の各テーマについて事前に読んでおくこと。
	事後学習	教科書やプリントを読み直し、内容を確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	精選 コンパクト教育心理学 教師になる人のために
	参考文献	学習指導要領。その他の文献は講義中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	教育心理学の各テーマについて理解をするとともに、自分なりの考えを述べることができるものは合格とする。
	方法	授業態度 30 点、試験 70 点によって評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	臨床心理学Ⅱ	
担当者	松本 宏明 / MATSUMOTO, Hiroaki	
科目情報	教職専門科目 / 必修 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
	―	
科目概要	授業内容	臨床心理学の考え方からみた不登校や引きこもり、児童虐待、依存などの問題への理解や対応について説明する。また、教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論および方法についても説明する。
	到達目標	臨床心理学の基礎理論について学ぶことで、問題行動が生じる基本的メカニズムを理解し、対応のための基本的な考え方が身につけられるようになる。
授業計画	(1) 臨床心理学の実践 (2) 心理アセスメントの実際(1) (3) 心理アセスメントの実際(2) (4) 教育相談の理論と方法(1) (5) 教育相談の理論と方法(2) (6) 不登校(1) (7) 不登校(2) (8) 引きこもり (9) 児童虐待 (10)自殺 (11)依存症 (12)いじめ (13)家族への関わり (14)資源の活用 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義後半に小レポートを課す。 ・講義の内容を自分なりにまとめる
使用教材・参考文献	使用教材	講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を適宜用いる
	参考文献	下山晴彦編著「よくわかる臨床心理学（改訂新版）」 ミネルヴァ書房 2009 年　ISBN: 4623054357 学習指導要領
成績評価の基準と方法	基準	臨床心理学の基礎知識が身につき，問題行動への心理的対応が理解できたものは合格とする。
	方法	評価の方法は試験 60%、小レポート 40%で行う。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	教職実践演習	
担当者	入江・岩橋・神薗・木下・嶋田・野浪・◎原之園・山喜（高）	
科目情報	教職専門科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2 単位 / 4 年次	
	―	
科目概要	授業内容	本科目は、教師を目指す者として、大学 4 年間で習得したことや教育実習の経験、さらには「履修カルテ」に基づき自己省察し、教員に求められる必要な資質や能力について醸成させる。また、教員としての使命感や責任感を確認し、さらには、生徒理解や教科指導等についての探究を通して教員としての自覚、及び実践的指導力の統合を目指す。
	到達目標	教員として求められる資質・能力、さらには、確かな実践的指導力の獲得を理論と実践の統合をはかりながら目指す。具体的には、次の 4 つの事項を目標とする。 （1）教師の使命感や責任感、教育的愛情等について再考し理解する。 （2）教師に求められる社会性や対人関係能力について理解し、他者とコミュニケーションを図ることができる。 （3）児童・生徒理解や学級経営等に関して理解を深め自分なりの意見を述べることができる。 （4）教科内容等に基づいた実践的指導力を身につけ、授業展開の向上を図ることができる
授業計画	(1) ・オリエンテーション（授業の目的と概要・教育実習や「履修カルテ」に基づく自己省察） (2) 1. ［使命感、責任感、教育的愛情］:「学校現場の理解（1)」（教師の役割、学級経営、職務内容の振り返り） (3) 〃 :「学校現場の理解（2)」（教師の姿：ゲストティチャーによる講話） (4) 2. ［社会性、対人関係能力］ :「教師に求められる社会性・対人関係能力（1)」 (5) 〃 :「教師に求められる社会性・対人関係能力（2)」 (6) 〃 :「学校づくりと地域や保護者との連携」 (7) 3. ［児童生徒理解］ :「発達に基づく児童生徒理解（1)」 (8) 〃 :「発達に基づく児童生徒理解（2)」 (9) 〃 :「児童生徒理解に基づく支援・指導への再考」 (10) 〃 :「児童生徒理解と道徳教育への探求」 (11)4. ［教科指導力］ :「指導計画と教材研究」 (12) 〃 :「模擬授業（1)」 (13) 〃 :「模擬授業（2)」 (14) 〃 :「模擬授業（3)」 (15)・総括（求める教師像や「履修カルテ」に基づく自己省察・自己課題の探究・自己評価）	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・教育実習の経験や「履修カルテ」に基づき、教員を目指す者として自己の課題を探究し、教員に求められる資質や能力について自己省察し理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	・文部科学省 編著『中学校学習指導要領』 東山書房 2008 年 ISBN:9784827814613 ・文部科学省 編著『高等学校学習指導要領』 東山書房 2009 年 ISBN:9784827814781 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説』(国語編、社会編、外国語編、道徳編、特別活動編） ぎょうせい 2008 年 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説』(国語編、地理歴史編、公民編、外国語編・英語編、特別活動編） 実況出版 2009 年
	参考文献	・文部科学省 編著『生徒指導提要』 教育図書 2010 年 ISBN:9784877302740 ・西岡加名恵著 『教職実践演習ワークブック ポートフォリオで教師力アップ』 ミネルヴァ書房 2014 年 ISBN：4623066517
成績評価の基準と方法	基準	授業を通して教員として求められる資質・能力の 4 つの事項、「①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「②社会性や対人関係能力に関する事項」「③児童生徒理解や学級経営等に関する事項「④教科内容等の指導力に関する事項」を理解し、これら 4 つの事項に基づいて教員としての自己課題を発見し、また、その改善策を自己探求できることを合格の基準とする。 さらには、「履修カルテ」に基づき教員として求められる資質・能力について自己評価・自己省察できることを合格の基準とする。
	方法	・各フェーズ毎に担当者が評価（40%） ・「履修カルテ」に基づき、各フェーズ毎に到達度を自己評価（20%） ・総括レポート（40%）
備考	・教員免許資格取得者（中学校・高等学校）は必修。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学校インターンシップＡ	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期または後期 / 実習 / 1 単位 / 3 年次	
	―	
科目概要	授業内容	本科目は、学校インターンシップを通して、教職に関する職務内容や児童生徒への理解を深め、教員として求められる資質・能力や実践的指導力などを総合的に幅広く高めていくことを目指す。
	到達目標	（1）学校現場での就業体験を通して、教員の職務内容について理解を深める。 （2）学校現場での就業体験を通して、児童生徒への理解を深め実践的な指導力を身に付ける。 （3）学校現場での就業体験を通して、学校と家庭・地域社会との連携のあり方を学び教員の役割について体得する。
授業計画	(1) 事前指導（インターンシップの意義と心構えについて） (2) 中学校におけるインターンシップ (3) 〃 (4) 〃 (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15)事後指導（インターンシップの報告、レポート作成）	
自学自習	事前学習	・学校教育に関する時事問題等をよく把握しておくこと。 ・教育用語等については辞書等でよく調べておくこと。
	事後学習	・文献で学んだ知識と学校インターンシップ（学校現場）を通して学んだ体験に基づき、教職に関する職務内容や実践的指導力への理解を深めること。・学校教育に関する新聞記事等に関心を持ち、常に自分だったらこうするという意識を持とう。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。配布するプリントを用いる。
	参考文献	・文部科学省『小学校学習指導要領』　東京書籍　2008 年　ISBN 9784487286959 ・文部科学省『中学校学習指導要領』　東山書房　2008 年　ISBN 9784827814613 ・文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房　2009 年　ISBN 9784827814781
成績評価の基準と方法	基準	教職に関する職務内容や児童生徒について多角的に理解し、総合的な観点から実践的指導論を述べることができることを合格の基準とする。
	方法	実践報告レポート（80%）、事前指導・事後指導の態度（20%）を含めて総合的に判断する。
備考	・教職課程のエントリー者であり、小学校における学校支援ボランティア経験者であること。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学校インターンシップＢ	
担当者	原之園 政治 / HARANOSONO, Masaharu	
科目情報	教職専門科目 / 選択 / 前期または後期 / 実習 / 2 単位 / 3 年次	
	―	
科目概要	授業内容	本科目は、学校インターンシップを通して、教職に関する職務内容や児童生徒への理解を深め、教員として求められる資質・能力や実践的指導力などを総合的に幅広く高めていくことを目指す。
	到達目標	(1) 学校現場での就業体験を通して、教員の職務内容について理解を深める。 (2) 学校現場での就業体験を通して、児童生徒への理解を深め実践的な指導力を身に付ける。 (3) 学校現場での就業体験を通して、学校と家庭・地域社会との連携のあり方を学び教員の役割について体得する。
授業計画	(1) 事前指導（インターンシップの意義と心構えについて） (2) 中学校におけるインターンシップ (3) 〃 (4) 〃 (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 〃	(16) 〃 (17) 〃 (18) 〃 (19) 〃 (20) 〃 (21) 〃 (22) 〃 (23) 〃 (24) 〃 (25) 〃 (26) 〃 (27) 〃 (28) 〃 (29) 〃 (30) 事後指導（インターンシップの報告、レポート作成）
自学自習	事前学習	・学校教育に関する時事問題等をよく把握しておくこと。 ・教育用語等については辞書等でよく調べておくこと。
	事後学習	・文献で学んだ知識と学校インターンシップ（学校現場）を通して学んだ体験に基づき、教職に関する職務内容や実践的指導力への理解を深めること。 ・学校教育に関する新聞記事等に関心を持ち、常に自分だったらこうするという意識を持とう。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。配布するプリントを用いる。
	参考文献	・文部科学省『小学校学習指導要領』 東京書籍 2008 年 ISBN 9784487286959 ・文部科学省『中学校学習指導要領』 東山書房 2008 年 ISBN 9784827814613 ・文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房 2009 年 ISBN 9784827814781
成績評価の基準と方法	基準	教職に関する職務内容や児童生徒について多角的に理解し、総合的な観点から実践的指導論を述べることができることを合格の基準とする。
	方法	実践報告レポート（80%）、事前指導・事後指導の態度（20%）を含めて総合的に判断する。
備考	・教職課程エントリー者であり、小学校における学校支援ボランティア経験者であること。・中学校における学校インターンシップ（夏季休業期間または春期休業期間を用いた 1 週間）である。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	専門資料論	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 1 単位 / 1 年次	
	司書資格科目 / 必修（ただし平成 23 年度以前の入学生のみ）	
科目概要	授業内容	大学における学問・研究を支える専門資料とは何かを理解する
	到達目標	人文・社会・自然科学の専門分野に関する学術情報やその利用、資料の種類や特徴について学ぶ。
授業計画	(1) 専門資料とは何かについて学ぶ (2) 一次資料と二次資料について学ぶ (3) 資料としての原典について学ぶ (4) 専門資料について学ぶ (5) 書誌と書誌学について学ぶ (6) 専門書志学について学ぶ (7) 人文科学分野の情報と資料について学ぶ (8) 社会科学分野の情報と資料について学ぶ (9) 自然科学分野の情報と資料について学ぶ (10)書誌の諸相について学ぶ (11)専門資料の保存と記録について学ぶ (12)専門資料のこれからについて学ぶ (13)専門資料の検索について学ぶ (14)専門資料の活用について学ぶ (15)総まとめ（課題と今後の展望）	
自学自習	事前学習	質問用紙は事前に配布してあるプリントに記載して提出する。
	事後学習	毎回授業の後にレポートを課す
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを使用する。
	参考文献	参考文献：三浦逸雄（他）「JLA 図書館情報学テキストシリーズ専門資料論（新訂版）」日本図書館協会　2010 年 ISBN4820409243
成績評価の基準と方法	基準	「専門資料」について概容を理解した者は合格とします。
	方法	レポート７０％　小レポート１５％　発表１５％
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	図書館概論	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	急激な社会の変化に伴い図書館に求められている最近の動向と、今後の図書館の姿についても考察を深める。公共図書館、大学図書館、学校図書館のそれぞれの特色・機能・役割を通して、図書館に関する基本的な事項を概説する。
	到達目標	①公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館の特色・機能・役割について学ぶ ②最近の図書館の動向を理解する ③最近の図書館の設計・デザインの流れを理解する
授業計画	(1) 図書館の意義と役割を理解する (2) 図書と図書館の歴史を学ぶ (3) 図書館の自由と図書館員の倫理綱領について理解する（１） (4) 図書館の自由と図書館員の倫理綱領について理解する（２） (5) 公共図書館（１）（図書館法規と行政、施策）について理解を深める） (6) 公共図書館（２）（制度と機能）全国の先駆的な公共図書館を学ぶ (7) 公共図書館（３）（制度と機能）全国の先駆的な公共図書館を学ぶ (8) 鹿児島県の公共図書館（県立図書館、市立図書館、公民館等）を学ぶ (9) 大学図書館（１）（制度と機能）全国の先駆的な大学図書館運営について学ぶ (10)鹿児島県の大学図書館（機能、役割）について学ぶ (11)学校図書館（１）学校図書館法等、法的根拠を理解する (12)学校図書館（２）小学校・中学校・高校の図書館運営について理解する (13)鹿児島県の学校図書館について図書館行政・施策の面から理解する (14)図書館相互協力とネットワーク、図書館ボランティア等について理解する (15)図書館の施設設備について理解する	
自学自習	事前学習	事前に与えられた課題は予習をしてくること
	事後学習	授業の後に毎回小レポートを課す
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを使用する
	参考文献	塩見昇「EJLA 図書館情報学テキストシリーズ　図書館概論」日本図書館協会　2012年　ISBN4820412168
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて、公共図書館、大学図書館、学校図書館の特色、機能、役割について理解したものは合格とします、
	方法	レポート７０％　受講態度１５％　小レポート１５％
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	図書館制度・経営論	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	図書館制度はどのような法的根拠から成立しているのだろう。これまでの公的施設としての図書館は民間指定業者による図書館経営等へと変化してきている。21 世紀における未来志向の図書館経営とその課題等について学ぶ
	到達目標	図書館に関する法律や図書館政策を学ぶことにより、図書館制度や図書館経営の考え方について理解を深める。また新しい図書館の動向を学び、今後の書館経営の在り方と諸課題について理解する。
授業計画	(1) 図書館制度と図書館経営についてのオリエンテーションを行う (2) 公共図書館における法的根拠（図書館法）を学ぶ (3) 大学図書館における法的根拠（大学設置基準等）を学ぶ (4) 学校図書館における法的根拠（学校図書館法）を学ぶ (5) 他館設置基準について学ぶ（身体障害者福祉法） (6) 図書館サービス関連法規（著作権法等）を学ぶ (7) 公共図書館経営について理解する（組織構成と職員） (8) 公共図書館経営について理解する（図書館業務から評価） (9) 大学図書館経営について理解する（組織構成と職員） (10)大学図書館経営について理解する（図書館業務から評価） (11)学校図書館経営について理解する（組織構成と職員） (12)学校図書館経営について理解する（図書館業務から評価） (13)民間指定業者が運営する公共図書館について学ぶ (14)今後の図書館経営についてグループ学習で考察を行う (15)公共図書館見学	
自学自習	事前学習	事前に与えられた課題は予習してくること
	事後学習	授業後に毎回小レポートを提出する
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するレポートを用いる
	参考文献	参考文献：二村健（監修）手嶋孝典（編著）「図書館制度・経営論」学文社　2013 年 ISBN4762021954
成績評価の基準と方法	基準	図書館に関する法律とその内容を把握したものは合格とします
	方法	レポート７０％　小レポート１５％　発表１５％
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	図書館サービス概論	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館の特色、機能、役割を再確認し、利用者と直接かかわる様々な図書館サービスについて学ぶ。最近の図書館サービスの動向にも触れ、これからの図書館サービスについても考察を深める。
	到達目標	これまで図書資料の収集保管が中心だった図書館業務は大きな変貌を遂げつつある。各種図書館におけるさまざまな図書館サービスを学び、図書館員としての資質と発想力、企画力を培う。
授業計画	(1) 図書館サービスの意義と目的について学ぶ (2) 学校図書館における図書館サービスを学ぶ (3) 大学図書館における図書館サービスを学ぶ (4) 公共図書館における図書館サービスを学ぶ（変わる図書館・武蔵野プレイス） (5) 公共図書館における図書館サービスを学ぶ（新しい図書館・千代田図書館） (6) 公共図書館における図書館サービスを学ぶ（町中を図書館に・施町まちとしょテラソ） (7) 公共図書館における図書館サービスを学ぶ（指定管理者制度・武雄市図書館） (8) 公共図書館における図書館サービスを学ぶ（視察が絶えない・伊万里市民図書館） (9) 公共図書館における図書館サービスを学ぶ（地元を知ろう・鹿児島県立図書館） (10)公共図書館における図書館サービスを学ぶ（繋がる図書館・国立国会図書館） (11)公共図書館における図書館サービスを学ぶ（専門図書館） (12)公共図書館における図書館サービスを学ぶ（北欧の公共図書館） (13)公共図書館における図書館サービスを学ぶ（ＮＹ公共図書館） (14)図書館サービスについて考察する（グループ学習） (15)鹿児島県立図書館見学	
自学自習	事前学習	事前に与えられた課題は予習をしてくること
	事後学習	授業の後に毎回小レポートを提出する
使用教材・参考文献	使用教材	教科書：猪谷千香（著）「つながる図書館」ちくま新書　2014年　780円 ＩＳＢＮ9784480067562
	参考文献	参考文献：金沢みどり「図書館サービス概論」学文社　2014年 ＩＳＢＮ4762024238
成績評価の基準と方法	基準	各種図書館の特色・機能・役割を踏まえた図書館サービスについて力士たものは合格とする。
	方法	試験７０％　小レポート１５％　発表１５％
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	情報サービス論	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	図書館における情報サービスの意義、レファレンスサービス、情報検索サービスについて解説する。最近の公共図書館、学校図書館のレファレンスサービスの主流の一つであるパスファインダーについても学ぶ
	到達目標	図書館員として利用者から寄せられる質問等への回答（レファレンス業務）の基礎的な知識とスキルを習得する。テーマに即したパスファインダーを作成できるスキルを習得する。
授業計画	(1) 情報サービスとは何かについて学ぶ (2) さまざまな情報ニーズと学校図書館サービスについて学ぶ (3) さまざまな情報ニーズと公共図書館サービスについて学ぶ (4) 図書館におけるレファレンスサービスの現状を理解する (5) レファレンス・コレクションの構成について学ぶ (6) レファレンス質問受付と内容の確認について学ぶ (7) レファレンス・インタビューの技法と実際についてグループで討議する学習をおこなう (8) 探索方針の立て方と質問の分析方法について学ぶ (9) 探索プロセスと情報の入手方法について学ぶ (10)インターネットでの検索と問題点について考察する (11)パスファインダーの作成①事例研究に取り組む (12)パスファインダーの作成②企画と実践に取り組む (13)パスファインダーの作成③発表を行う (14)図書館利用教育プログラムの構築をグループで討議する (15)図書館利用教育プログラムについてグループで発表する	
自学自習	事前学習	事前に与えられた課題は予習をしてくること
	事後学習	授業後に小レポートを課します
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	参考文献：竹ノ内禎（編著）「情報サービス論」　学文社　2013年 ISBN4762021947
成績評価の基準と方法	基準	レファレンスの基礎知識を修得したものは合格とします
	方法	レポート　６０％　小レポート２０％　発表２０％
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	レファレンスサービス演習	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 演習 / 1単位 / 3年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	「情報サービス」で学んだ内容を元に、参考業務（レファレンス）に関するスキルをさらに深める。さまざまなレファレンスに対する回答を学び知識を深め、レファレンスに対する処理能力を学ぶ。
	到達目標	①レファレンスに対するさまざまな情報源について学ぶ②レファレンス業務の実践を通して、利用者の質問事項と参考図書を短時間に関連付けて回答できるスキルを培う。
授業計画	(1) レファレンスサービスとは何かを理解する (2) レファレンスツールとメディアについて学ぶ (3) レファレンスに必要な参考図書について学ぶ (4) 学校図書館におけるレファレンスインタビュー、回答のスキルを学ぶ (5) 学校図書館におけるレファレンスの回答の発表を行う (6) 公共図書館におけるレファレンスの具体例からスキルを学ぶ (7) レファレンス演習①グループでレファレンスに取り組む (8) レファレンス演習②グループでレファレンスの参考図書を検索する (9) レファレンス演習③グループでレファレンスの回答発表をおこなう (10)レファレンス演習④個人でレファレンスに取り組む (11)レファレンス演習⑤個人でレファレンスの参考図書を検索する (12)レファレンス演習⑥個人でレファレンスの発表を行う (13)レファレンス演習⑦パスファインダーに取り組む (14)レファレンス演習⑧パスファインダーの発表を行う (15)鹿児島県立図書館を見学して図書館運営やレファレンススキル等を学ぶ	
自学自習	事前学習	事前に与えられた課題を予習をしておくこと。
	事後学習	授業終了後に小レポートを課す
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる
	参考文献	参考文献：大本幸子「改訂レファレンスサービス演習」樹村房　2004年 ISBN4883670772
成績評価の基準と方法	基準	レファレンス業務の基礎を習得しているものは合格とします
	方法	レポート７０％　小レポート１５％　発表１５％
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	情報検索演習	
担当者	瀬戸 博幸 / SETO, Hiroyuki	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 演習 / 1 単位 / 3 年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	情報検索について基礎的な概念を理解した上で、実際にコンピュータを用いて必要な情報を検索し、図書館司書として利用者に必要な情報をサービスできるよう基本的また実践的な技能を修得する
	到達目標	１．データベースとは何か、理解できるようになる ２．社会、特に図書館でのデータベース活用状況を把握する ３．利用者の検索要求を分析し、情報を発信できるようになる
授業計画	(1) コンピュータとデータベースについて (2) OPAC とはどのようなものか (3) WebcatPLUS とはどのようなものか (4) 国立国会図書館について (5) インターネット上の仮想図書館について (6) 図書館司書について考えてみよう (7) CD に入ったデータベース検索環境の設定 (8) 人物略歴情報の検索 (9) 雑誌記事情報の検索 (10)図書内容情報の検索 (11)新聞記事原報の検索 (12)総合演習その 1 (13)総合演習その 2 (14)総合演習その 3 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・図書館とはどのような場所か、常に関心を持つようにする。
	事後学習	講義時間に検索しきれなかった問題にあたっておくこと
使用教材・参考文献	使用教材	CD－ROM で学ぶ 情報検索の演習 新訂４版 （日外アソシエーツ） ISBN978-4-8169-2393-7
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	コンピュータを操作し、具体的な検索ができない場合は不合格とします。
	方法	11 回まで講義内容について小レポートを課し、12 回以降は総合演習問題について最終レポートを課します。(小レポート 50%、最終レポート 50%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	図書館情報資源概論	
担当者	吉田　英明 / YOSHIDA, Hideaki	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	図書館情報資源は多様なメディア（印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源）から構成されている。各種メディアの生産や流通を解説し、図書館コレクションの形成や提供の背景となる理論（資料の選択・収集・評価）や方法について学んでいただく。そのため、メディアの類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存等、図書館業務に必要な情報資源に関する知識を解説する。
	到達目標	図書館資料の類型について学び、コレクション形成の理論、情報源、プロセスを学習する。また、主題分野ごとの情報資源とそれらの特性も理解する。図書館と密接に関わる出版社・取次を含む情報資源の生産・流通について理解を深め、文章化できるようになる。 図書館関係の採用試験問題に取り組むことで、同様の問題に対処できるようになる。
授業計画	(1) 図書館情報資源とは何か（定義と分類） (2) 印刷資料と非印刷資料（点字、録音、マイクロ、視聴覚資料）の類型と特質 (3) 電子資料、ネットワーク情報資源の類型と特質 (4) 地域資料、行政資料（政府刊行物）、灰色文献 (5) 情報資源の生産（出版）と流通（出版・書店業界の動向、再販制度） (6) 図書館業務と情報資源に関する知識（書誌的事項に関する基本的な知識を含む） (7) コレクション形成の理論（資料の選択・収集）と方法（選択ツールの利用、選定）、評価 (8) 資料の受入（装備・排架・展示）・除籍・保存・管理（書庫管理・劣化防止・蔵書点検等） (9) 図書館の理念と拮抗する権利関係（図書館の自由宣言、知る権利と著作権、検閲） (10)人文・社会科学分野の情報資源とその特性 (11)科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性 (12)電子ジャーナル（現状・将来・提供方法） (13)電子ブック（現状・将来・提供方法） (14)新しい情報・資料・メディアの収集、整理、利用等の留意点 (15)図書館資料のライフサイクル	
自学自習	事前学習	配布資料について事前に目を通し、不明な点を明確にして授業に臨むこと。
	事後学習	必要に応じて課題を課す。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布する資料を用いる。
	参考文献	授業の中で案内します。
成績評価の基準と方法	基準	図書館情報資源の類型と特質について理解し、表現できれば合格とします。
	方法	試験　80%、課題提出と受講態度　20 %
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	情報資源組織論	
担当者	川戸 理恵子 / KAWATO, Rieko	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	図書館にある資料は、情報への適切かつ効率的なアクセスを可能にするために組織化されている。組織化に必要な知識について解説をする。
	到達目標	図書館における組織化に必要な技術である目録・分類等について取りあげるなかで、目録システムや主題別の組織化の仕組みについて理解する。
授業計画	(1) 図書館の機能と資料組織 (2) 資料組織業務 (3) 書誌コントロール (4) 書誌情報の作成・流通・管理 (5) コンピュータによる目録作成の実際 (6) 目録法の基礎 (7) 記述目録法の基礎 (8) 記述の単位と順序 (9) 記述目録作成の実際(1) (10)記述目録作成の実際(2) (11)主題目録法 (12)分類の基礎 (13)主題目録作成の実際(1) (14)主題目録作成の実際(2) (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・不明な点がある場合は適宜確認し、解決すること。
使用教材・参考文献	使用教材	柴田正美著『情報資源組織論』日本図書館協会　2012 年　ISBN 978-4-8204-1202-1
	参考文献	日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』 日本図書館協会 2006 年　ISBN 4-8204-0602-7 ／ 日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表 第 4 版』 日本図書館協会　1999 年　ISBN 4-8204-9912-2 ／ もりきよし原編/日本図書館協会分類委員会改訂編集『日本十進分類法 新訂 9 版』 日本図書館協会 1995 年　ISBN 4-8204-9510-0
成績評価の基準と方法	基準	テキストに記載されている資料の組織化に関する理解ができており、「情報資源組織演習」の受講に支障がない者を合格とする。
	方法	受講態度（10%）課題への取り組み（20%）、期末に実施する筆記試験（70%）により評価を行う。
備考	「図書館概論」を修得済みである者の受講が望ましい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	情報資源組織演習 I	
担当者	川戸 理恵子 / KAWATO, Rieko	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 演習 / 1 単位 / 2 年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	「情報資源組織論」から得た知識に基づき、さらに解説を加え、例題に取り組みながらの作業を通じて、記述目録法（目録作成作業）の実践的能力を身につける。
	到達目標	以下の事柄ができること。 ・ 『日本目録規則』にもとづく目録の記述および入力 ・ 標目の付与および排列
授業計画	(1) 記述目録法と主題目録法 (2) 単行資料の記述･1 (3) 単行資料の記述･2 (4) 単行資料の記述･3 (5) その他の資料の記述･1 (6) その他の資料の記述･2 (7) 継続資料の記述･1 (8) 継続資料の記述･2 (9) 標目および排列の実際 (10)集中化・共同化による書誌データ作成の実際･1 (11)集中化・共同化による書誌データ作成の実際･2 (12)書誌データ管理・検索システムの構築 (13)ネットワーク情報資源のメタデータ作成の実際･1 (14)ネットワーク情報資源のメタデータ作成の実際･2 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・使用教材および参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・不明な点がある場合は適宜確認し、解決すること。
使用教材・参考文献	使用教材	吉田憲一編著『資料組織演習』日本図書館協会　2007 年　ISBN 978-4-8204-0624-2
	参考文献	日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』 日本図書館協会 2006 年　ISBN 4-8204-0602-7
成績評価の基準と方法	基準	図書館における情報資源の組織化に関するの基礎能力が身についている者を合格とする。
	方法	受講態度（10%）課題への取り組み（20%）、期末に実施する筆記試験（70%）により評価を行う。
備考	「情報資源組織論」を修得済みである者の受講が望ましい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	情報資源組織演習Ⅱ	
担当者	川戸 理恵子 / KAWATO, Rieko	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 演習 / 1単位 / 3年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	「情報資源組織論」から得た知識に基づき、さらに解説を加え、例題に取り組みながらの作業を通じて、主題目録法（分類・件名の付与）の実践的能力を身につける。
	到達目標	以下の事柄ができること。 ・ 主題分析 ・ 『日本十進分類法』を活用した分類の付与、『基本件名標目表』を活用した件名の付与
授業計画	(1) 記述目録法と主題目録法 (2) 主題分析の理論 (3) 主題分析の実際･1 (4) 主題分析の実際･2 (5) 件名付与の理論 (6) 件名付与の実際･1 (7) 件名付与の実際･2 (8) 分類付与の理論 (9) 分類付与の実際･1 (10)分類付与の実際･2 (11)分類付与の実際･3 (12)分類付与の実際･4 (13)分類付与の実際･5 (14)請求記号 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・使用教材および参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・不明な点がある場合は適宜確認し、解決すること。
使用教材・参考文献	使用教材	吉田憲一編著『資料組織演習』日本図書館協会　2007年　ISBN 978-4-8204-0624-2
	参考文献	日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表 第4版』日本図書館協会　1999年　ISBN 4-8204-9912-2 もりきよし原編/日本図書館協会分類委員会改訂編集『日本十進分類法 新訂9版』日本図書館協会　1995年　ISBN 4-8204-9510-0
成績評価の基準と方法	基準	図書館における情報資源の組織化に関するの基礎能力が身についている者を合格とする。
	方法	受講態度（10%）課題への取り組み（20%）、期末に実施する筆記試験（70%）により評価を行う。
備考	「情報資源組織論」を修得済みである者の受講が望ましい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	児童サービス論	
担当者	川戸 理恵子 / KAWATO, Rieko	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	図書館における児童サービスは乳幼児から青少年まで幅広い年齢を対象として行われるサービスである。そのなかで扱われる資料やサービスについて解説をする。
	到達目標	児童サービスにおいて扱われる多種多様な資料やサービスの種類と方法、サービス対象者の特徴を理解する。また、子どもに対する読書教育の意義や児童サービス担当職員の役割について理解する。
授業計画	(1) 児童サービスの意義 (2) 児童サービスの歴史 (3) 児童の発達と読書興味 (4) 児童資料の種類･1 (5) 児童資料の種類･2 (6) 児童資料の選択と組織化 (7) 児童サービスの運営･1 (8) 児童サービスの運営･2 (9) 読み聞かせの実際 (10)ストーリーテリングの実際 (11)ブックトークの実際 (12)ヤングアダルトサービス (13)学校図書館における図書館サービス (14)児童サービスの現状と今後の展望 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・使用教材（配布資料等）を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・不明な点がある場合は適宜確認し、解決すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	児童サービスにおける基礎的な知識と技能を身につけたものを合格とする。
	方法	受講態度（10%）課題への取り組み（20%）、最終レポート（70%）により評価を行う。
備考	「図書館概論」および「図書館サービス概論」を修得済みである者の受講が望ましい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	図書・図書館史	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 1単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 選択	
科目概要	授業内容	過去から現在、そして未来へと永続する書物の力を解き明かし、書物と図書館が社会的にどのような影響を与えてきたのか時代を追って学ぶ。
	到達目標	書物の歴史を粘土板に刻まれた文字から説き起こし、電子ブックに至るまで書物と図書館について、さらに「読む」ことの変遷も時代を追って学び理解する。
授業計画	(1) 紙以前の世界から巻子と冊子までの歴史を学ぶ (2) 製本と判型、本の設計、書物と図像について学ぶ (3) アルファベットから仏典までの書体について学ぶ (4) 日本の仏典から朝鮮の印刷・出版までの歴史について学ぶ (5) ヨーロッパ中世の写本について学ぶ (6) グーテンベルグからプランタン印刷所までの歴史的経緯について学ぶ (7) ヨーロッパの図書館から禁書・焚書の歴史までを学ぶ (8) 書物と権力（検閲）からヨーロッパで流行した書物の行商について学ぶ (9) 博物誌・旅行記、百科全書から辞典までの歴史的経緯について学ぶ (10)印刷職人の仕事から装丁までの歴史について学ぶ (11)中国小説の栄盛から江戸の貸本屋について学ぶ (12)キリシタン版と駿河版、本の都（京都・ベネツィア）について学ぶ (13)著者権・著作権から国際ブックフェアの繁栄まで歴史的経緯を学ぶ (14)本を読む子どもたちからベストセラーと大衆社会について歴史的経緯を学ぶ (15)書物はどこにゆくのか、本の未来形について考察する	
自学自習	事前学習	事前に与えられた課題は予習をしてくること。
	事後学習	授業の終わりに小レポートを課す
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる
	参考文献	参考文献「樺山紘一（編）「図説本の歴史」河出書房新社　2011年　1800円 ISBN978-4-309-76169-5
成績評価の基準と方法	基準	書物と図書館が社会的にどのような影響を与えたか理解できたら合格とします
	方法	レポート７０％　小レポート３０％
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	図書館サービス特論	
担当者	吉田　英明 / YOSHIDA, Hideaki	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 1単位 / 3年次	
	司書資格科目 / 選択	
科目概要	授業内容	図書館サービスの歴史的背景、法的・社会的背景、情報技術とのかかわり（図書館業務とＤＢＭＳ）、図書館情報資源（資料）の生産・流通などを学び、図書館サービスと資料（情報資源）、利用者や図書館のステークホルダー（公立図書館であれば地方公共団体や納税者など）との関わりなど図書館サービスの諸相を学んでいただく。また、図書館関係の試験問題に取り組み、同様の問題に対処できるように解説する。
	到達目標	図書館が抱える様々な事例をとおして図書館サービスの基礎となる考え方を学び、ひいてはどういう図書館づくりをしていけばよいかを考え、自分なりの理想的な図書館像を描くことができるようにする。
授業計画	(1) ガイダンス、図書館サービス特論の進め方 (2) 図書館の役割（歴史とレビュー） (3) コミュニティと図書館 (4) 今日的な課題（1）著作権、公貸権 (5) 今日的な課題（2）図書館業務とＤＢＭＳ (6) 今日的な課題（3）書誌ＤＢと情報検索の仕組み (7) 今日的な課題（4）図書館業務のデータ構造 (8) 今日的な課題（5）電子図書館的サービス (9) 今日的な課題（6）利用者開放インターネットサービス (10)事例研究（1）図書館情報資源（資料）の生産・流通 (11)事例研究（2）指定管理者制度 (12)事例研究（3）訴訟に見る図書館 (13)事例研究（4）図書館サービスと人材育成 (14)事例研究（5）図書館と博物館等、関連施設の連携 (15)事例研究（6）住民による図書館支援の可能性	
自学自習	事前学習	配布資料について事前に目を通し、不明な点を明確にして授業に臨むこと。
	事後学習	必要に応じて課題を課す。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布する資料を用いる。
	参考文献	授業の中で案内します。
成績評価の基準と方法	基準	図書館に関係しそうな課題を把握し、理想的な図書館像を描くことができれば合格とします。
	方法	試験　80%、課題提出と受講態度　20 %
備考	図書館サービス概論を履修していることが望ましい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	図書館情報資源特論	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 1単位 / 2年次	
	司書資格科目 / 選択	
科目概要	授業内容	さまざまな情報資源について理解し、日本や世界の図書館においてどのような保存・収集・利用がなされているか解説する
	到達目標	①地域資料や学術資料等の特性や利用法を理解する ②古典資料について専門的知識を深める
授業計画	(1) オリエンテーションで講義の概容を理解する (2) 地域資料の特性と利用法を学ぶ (3) 郷土資料・学術資料について理解を深める (4) 学術情報と図書館について学ぶ (5) 古典資料の概説を学ぶ (6) 古典資料を所蔵する図書館について学ぶ (7) 中世ヨーロッパの修道院と写本について学ぶ① (8) 中世ヨーロッパの修道院と写本について学ぶ② (9) 古典資料の目録と分類について理解を深める (10)古典資料の保存・補修について理解を深める (11)古書と愛藏家について学ぶ① (12)古書と愛藏家について学ぶ② (13)古典資料とコンピュータについて理解を深める (14)古典資料と日本人について理解を深める (15)公共施設における古典資料の収集保管について見学	
自学自習	事前学習	事前に与えられた課題は予習をしてくること
	事後学習	毎回授業後に小レポートを提出する
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	参考文献は特に指定しない
成績評価の基準と方法	基準	知己資料・学術資料・古典資料の特性についてりかいしたものは合格とします。
	方法	レポート７０％　小レポート１５％　発表１５％
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学校経営と学校図書館	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書教諭資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	学校図書館はどのような歴史を経て現在の学校図書館へと移り変わってきたのだろう。多くの学校図書館の事例を学ぶと同時に今後の学校図書館の可能性についても、さまざまな角度から考察します。
	到達目標	①学校経営の中における学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ ②従来の学校図書館の運営から、さらに変化し続ける”新しい学校図書館”について理解する
授業計画	(1) 学校図書館の理念と教育的意義を理解する (2) 世界・日本の学校図書館史を学ぶ (3) 鹿児島県の学校図書館の歴史を学ぶ (4) 鹿児島県の学校図書館の現状を理解する (5) 学校図書館法を学ぶ (6) 学校経営の中のア学校図書館を理解する (7) 学校図書館の経営を理解する（小学校） (8) 学校図書館の経営を理解する（中学校） (9) 学校図書館の経営を理解する（高校） (10)学校図書館とネットワークについて学ぶ（ＰＴＡ・地域との連携） (11)学校図書館とネットワークについて学ぶ（公共図書館との連携） (12)学校図書館の施設・設備につて考察する (13)学校図書館をデザインする (14)学校ｔ図書館と司書教諭の役割を学ぶ (15)学校図書館を見学しよう	
自学自習	事前学習	事前に与えられた課題は予習をしてくること
	事後学習	毎回授業の後に小レポートを提出する
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる
	参考文献	参考文献：野口武悟（等）「学校経営と学校図書館」ＮＨＫ出版　2013年 ISBN4595314513
成績評価の基準と方法	基準	同署、学習・情報センターとしての学校図書館の位置づけを理解しているものは合格とします
	方法	レポート７０％　小レポート１５％　発表１５％
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学校図書館メディアの構成	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書教諭資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	多様化した今日の情報メディアを学校図書館ではどのように扱うか理解する
	到達目標	学校図書館メディアとは何だろう。高度情報化社会、知識基盤社会、知識経済社会の中で児童生徒を取り巻く学習環境も大きく変化（教育課程の変化）している。学校図書館は情報・資料の収集・整理（組織化）・保存をどのように扱っているか理解する。
授業計画	(1) 学習環境の変化と学校図書館メディアの現状を学ぶ (2) 学校図書館メディアとその活用法（小学校）について学ぶ (3) 学校図書館メディアとその活用法（中学）について学ぶ (4) 学校図書館メディアとその活用法（高校）について学ぶ (5) 学校図書館メディアの構築について理解する (6) 学校図書館メディアを実際に構築してみる (7) 学校の教育方針とメディア選択について理解する (8) 學校図書館メディアの組織化（収集と整理）について学ぶ (9) 学校図書館をデザインする①本棚、分類、配架を考える (10)学校図書館をデザインする②目録～ネットワークを考える (11)日本十進分類法について理解する (12)日本十進分類法を活用する (13)学校図書館と目録について学ぶ (14)学校図書館とネットワークについて理解する (15)特別支援と学校図書館メディアについて学ぶ	
自学自習	事前学習	質問事項は事前に配布したプリントに記載ｓ手提出する
	事後学習	与えられた課題はきちんと予習してくること
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配布する
	参考文献	参考文献:北　克一等著「新訂学校図書館メディアの構成」放送大学教育振興会　2012年　ISBN4595313905
成績評価の基準と方法	基準	学校図書館メディアの概容を把握し、日本十進分類法と目録の種類について理解したものは合格とします。
	方法	レポート７０％　小レポート３０％
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学習指導と学校図書館	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	司書教諭資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	学校図書館法に明記されている「教育課程の展開に寄与する」学校図書館とはどういうことだろう。学校図書館と教科の学習指導は今までどのように展開してきたのか実践事例をもとに解説し、さらに今後の動向についても考察する。
	到達目標	①学習指導と学校図書館の活用について理解する ②学校図書館と情報サービスメディア活用能力を理解する ③教科支援と図書館の連携について理解する
授業計画	(1) 学校図書館の役割について理解する (2) 学校教育カリキュラムについて学ぶ (3) 学習・情報センターとしての学校図書館について学ぶ (4) 主体的学習と情報活用能力の育成について学ぶ (5) 情報活用能力育成のための指導内容について考察する (6) 情報活用指導計画を構築し作成する (7) オリエンテーションと図書館利用案内資料を作成する (8) 学校図書館における情報サービスを学ぶ①児童生徒 (9) 学校図書館における情報サービスを学ぶ②教職員 (10)学習支援と司書教諭の役割について学ぶ (11)教科学習における支援を学ぶ①小学校 (12)教科学習における支援を学ぶ②中学校 (13)教科学習における支援を学ぶ③高校 (14)教科学習における支援・発表（ブックトークに取り組む） (15)教科学習における支援・発表（パスファインダーを作成する）	
自学自習	事前学習	事前に与えられた課題は予習をしてくること
	事後学習	授業後に毎回小レポートを提出する
使用教材・参考文献	使用教材	「シリーズ学校図書館学３－学習指導と学校図書館 「シリーズ学校図書館学」編集委員会編　全国学校図書館協議会編 ISBN　978-4-7933-2244-0　1600 円
	参考文献	参考文献：細川照代「新訂学習指導と学校図書館」ＮＨＫ出版　2011 年 ISBN4595312250
成績評価の基準と方法	基準	学校図書館が取り組んでいる学習指導について現状を学び、これからの学習指導について考察できるものは合格とする。
	方法	レポート７０％　小レポート１５％　発表１５％
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	読書と豊かな人間性	
担当者	岩下 雅子 / IWASHITA, Masako	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書教諭資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	学校図書館では豊かな人間性を培うために、どのような取り組みがなされているのだろう。小・中・高校の実践例を学ぶと同時に、さまざまな読書手法も学ぶ
	到達目標	①人間と読書の歴史について学ぶ ②学校で行われている読書指導について学ぶ ③多様化する読書形態を学ぶ ④読書資料の種類と活用について学ぶ
授業計画	(1) 読書の歴史（読書観の変遷）を学ぶ (2) 図書館の歴史を学ぶ (3) 小学校の読書指導を学ぶ (4) 中学校の読書指導を学ぶ (5) 高校の読書指導を学ぶ (6) 学校における読書指導についてグループで考察する (7) 社会人を対象としたさまざまな読書活動について考察する (8) 書店が開催するユニークな読書活動について考察する (9) 公共図書館が行っているさまざまな読書活動について学ぶ (10)読書手法を学ぶ①ブックトーク　他 (11)読書手法を学ぶ②ビブリオバトル　他 (12)読書手法を学ぶ③パネルシアター　他 (13)読書手法を学ぶ④アニマシオン (14)鹿児島県の特色ある読書活動を学ぶ (15)文学記念館の見学	
自学自習	事前学習	事前に与えられた課題は予習をしてくること
	事後学習	授業の後に毎回小レポートを提出する
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	参考文献：全国学校図書館協議会「読書と豊かな人間性」全国ＳＬＡ　2011年 ＩＳＢＮ4793322457
成績評価の基準と方法	基準	さまざまな読書手法について理解したものは合格とする。
	方法	レポート７０％　小レポート１５％　発表１５％
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	情報メディアの活用	
担当者	瀬戸 博幸 / SETO, Hiroyuki	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	司書教諭資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	インターネットの爆発的な普及により、図書館におけるコンピュータとインターネットの役割が大きく変化している。　また、携帯電話で音楽を楽しんだり、写真を撮ったり、コンピュータと連携し使用できる情報メディアも多様化し、急速に変化している。このような現在において図書館で情報メディアをどのように活用すべきか考える。
	到達目標	１．情報とは何か、その概念を述べることができるようになる ２．情報メディアの歴史を語れるようになる ３．情報メディアの活用について考えることができるようになる
授業計画	(1) 情報ってなんだろう (2) 日本でラジオ放送がどのように誕生したか (3) インターネットを活用しラジオについて歴史年表をつくろう (4) テレビの誕生 (5) ラジオの歴史年表に重ねてみよう (6) 地上デジタル放送とは (7) 近未来のテレビ放送 (8) 映像の記録メディア (9) 南極からのハイビジョン生中継 (10)月からのハイビジョン映像 (11)これからの情報メディアについて考えてみよう (12)考察その 1 (13)考察その 2 (14)考察その 3 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	情報メディアに関心を持ち各種メディアを観察しておくこと
	事後学習	講義内容を自身の問題ととらえ考察すること
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。ビデオ教材や Web を活用する。
	参考文献	「情報メディアの意義と活用」　(樹村房)　大串夏身編著
成績評価の基準と方法	基準	情報とメディアについて理解ができてない場合は不合格とする
	方法	11 回まで講義内容について小レポートを課し、12 回以降は最終レポートを課します。(小レポート 50%、最終レポート 50%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	博物館概論	
担当者	徳永 和喜/ TOKUNAGA, Kazunobu	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	学芸員科目 / 必修	
科目概要	授業内容	博物館とは何か。博物館の目的と機能、博物館に関する法規、学芸員の職務などを通して基礎的知識と課題を理解し、高度情報化社会に対応する新しい博物館のあり方を考える。
	到達目標	博物館の歴史や役割の変化を学び、博物館が学校教育・生涯学習に果たす役割を理解する。さらに、博物館が現代社会に果たす多様な役割と目的を認識する。
授業計画	(1) 博物館の基本属性（館種、設置者、法区分）と特性（所在地、展示資料） (2) 博物館の起源と歴史、関係法規 (3) 博物館の組織と運営 (4) 博物館の展示（展示意図、展示場所、展示期間） (5) 博物館の目的（博物館法、各種博物館とその特質） (6) 博物館の機能（資料収集、保存展示、調査・研究、教育普及） (7) 学芸員の職務 1（収集・保管・調査・研究） (8) 学芸員の職務 2（常設展示事業と体験学習） (9) 学芸員の職務 3（特別展の実際－企画構想から展示会開催迄） (10)学芸員の職務 4（特別展図録作成） (11)博物館と学校教育・地域社会・生涯学習 (12)博物館相互等の連携（大学、研究機関、博物館－資料、研究、派遣） (13)博物館の現状と課題（コンプライアンス、危機管理、情報の保護・管理） (14)博物館の収蔵資料情報（資料台帳、データーベース化） (15)補足とまとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課す課題の概要：必要に応じ小レポート（3 回）を課す。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は　『新時代の博物館学』芙蓉書房出版(本体 1900 円＋税)を使用します。
	参考文献	適宜プリントを配布します。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて「博物館の意義や役割が理解できた者を合格」とします。
	方法	受講態度 20%、小レポート 20%、修了試験 60%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	博物館経営論	
担当者	徳永 和喜/ TOKUNAGA, Kazunobu	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
	学芸員科目 / 必修	
科目概要	授業内容	この授業では博物館の経営について取り上げる。博物館における経営の意義と方法、博物館行政の制度と組織、施設の運営と管理、博物館と社会連携、経営の実際と課題などについて解説する。
	到達目標	博物館における経営と組織、施設・設備、経営の実際、利用者サービスなどについて学び、学芸員としてふさわしい博物館の経営に関する知識の習得を目的とする。
授業計画	(1) 博物館経営の意義と必要性 (2) 博物館運営方法の制度的な変化 (3) ミュージアムマーケッティングと博物館評価 (4) 博物館の法と制度 (5) 国・地方自治体の博物館行政 (6) 博物館の運営組織 (7) 博物館の運営－建築と設備－ (8) 博物館の管理体制 (9) 博物館と社会連携 (10)博物館の広報活動と学習支援 (11)博物館のネットワーク活動 (12)博物館のホスピタリティーサービス (13)博物館経営の実際 (14)博物館経営の課題 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「参考文献」等を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課す課題の概要：必要に応じ小レポート（3 回）を課す。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	全国大学博物館学講座協議会西日本部会『新時代の博物館学』芙蓉書房
成績評価の基準と方法	基準	博物館経営論に関する知識の概略が理解できたものを合格とする。
	方法	受講態度 20%、小レポート 20%、修了試験 60%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	博物館資料論	
担当者	山下 廣幸 / YAMASHITA, Hiroyuki	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
	学芸員科目 / 必修	
科目概要	授業内容	博物館資料の意義、資料収集の理念と方法及び資料化の手順等について学び、あわせて薩摩の美術・工芸資料を通して博物館資料の本質を理解する。
	到達目標	博物館の大きな使命の一つが資料を収集し、保存し、それらを未来へ伝達することであるが、収集した「モノ」を「博物館資料」に資料化する手順を理解し、収集した資料を適切に保存し、そして展示に活用できるようになる。 また、地元薩摩の美術・工芸資料についての基礎的な知識を得ることができる。
授業計画	(1) 博物館・学芸員の仕事（オリエンテーション） (2) 博物館における資料の意義 (3) 資料収集の理念と方法 (4) 資料化の手順 (5) 資料の分類・整理 (6) 資料の保存 (7) 博物館資料の取扱いと輸送 (8) 資料の展示と活用 (9) 二次資料（レプリカ）の製作と活用 (10)博物館資料の危機管理 (11)薩摩の美術・工芸資料　やきものの基本と薩摩焼① (12)　〃　やきものの基本と薩摩焼② (13)　〃　日本刀鑑賞の基本と薩摩刀① (14)　〃　日本刀鑑賞の基本と薩摩刀② (15)　〃　薩摩画壇の絵師	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	毎回授業終了後、授業内容の理解度をみるためにショートレポートを課す。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。
	参考文献	全国大学博物館学講座協議会西日本支部編『新しい博物館学』、芙蓉書房出版、2008年 ISBN 978-4-8295-0416-1
成績評価の基準と方法	基準	博物館資料の意義とその資料化の手順及び活用について理解できたら合格とします。
	方法	毎回授業後のショートレポート（30 点）と終了試験（70 点）で評価します。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	博物館実習Ⅰ	
担当者	徳永 和喜/ TOKUNAGA, Kazunobu	
科目情報	特別講座科目 / 選択 / 前期 / 実習 / 1単位 / 3年次	
	学芸員科目 / 必修	
科目概要	授業内容	博物館学芸員として修得すべき知識を実践的に体験することを目的とし、博物館実習以前に基礎的知識と実践能力を獲得すると共に、学芸員間に必要な協調と連携能力を身に付ける。
	到達目標	博物館の実務に必要な基礎知識や技術を修得し、即戦力を身に付ける。学芸員の業務全体を理解し、実践的・体験的に学ぶ。
授業計画	(1) 博物館実習の目的 (2) 展示環境の基礎知識 (3) 歴史資料を読む1－花押の歴史 (4) 歴史資料を読む2－古文書の書札礼（文書用語・様式の規則） (5) 資料の取扱い1－軸装・巻子(講義・実習) (6) 資料の取扱い2－拓本の取り方(実習) (7) 資料の取扱い3－文書、文書箱紐の結び方(実習) (8) 資料の取扱い4－漆工芸品・陶磁器 (9) 資料の取扱い5－模擬刀の取扱いと展示法 (10)仏像・陶磁器の見方 (11)歴史資料の解読1－仮名文字を読む (12)歴史資料の解読2－近世文書を読む (13)見学実習 (14)見学実習 (15)補足と総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	『新時代の博物館学』芙蓉書房出版
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて「博物館の基礎的知識および技術を理解できた者を合格」とする。
	方法	講義の取り組み・実習態度や博物館見学ノート評価80%、授業準備と態度20%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル